



[アートディレクター]村上雅士 (m)
[写真右上]©kazuomi FURUYA
[写真右下]©JM_BESEVAL
[写真左]©Jeff Busby

COVER PHOTO

東京芸術祭2018 Tokyo Festival 2018

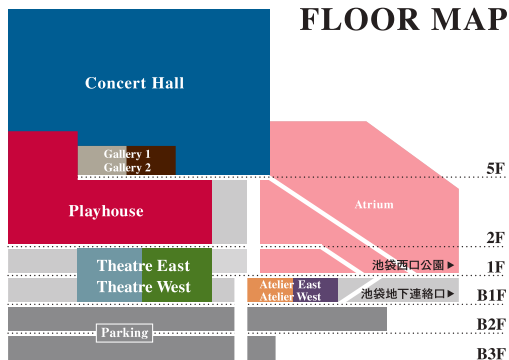
9月1日(土)~12月9日(日)

会場:東京芸術劇場／あうるすぽっと／池袋西口公園／南池袋公園 ほか

【参加事業】東京芸術祭直轄プログラム／フェスティバル／トーキョー18／
芸劇オータムセクション／としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム／
APAFーアジア舞台芸術人材育成部門

東京 芸術 劇場

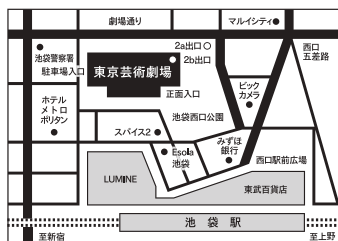
Tokyo
Metropolitan
Theatre



1F 東京芸術劇場ボックスオフィス
(チケット・観客案内カウンター)
予約
お問合せ **0570-010-296**
(休館日を除く10:00~19:00)

5F 託児サービス
東京芸術劇場で公演ご鑑賞のお客様の
お子様をお預かりします。(要予約)
HITOWAキャリアサポート株式会社 わらべうた
お問合せ **0120-415-306**
(平日9:00~17:00)

B2F・B3F 東京芸術劇場駐車場
| 利用料金 | 300円/30分
| 営業時間 | 7:00~24:00
| お問合せ | **03-6914-0019**



〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
| 開館時間 | 9:00~22:00 (休館日を除く)
| お問合せ | **03-5391-2111**
JR. 東京メトロ・東武東上線・西武池袋線池袋駅西口より
徒歩2分。池袋駅地下通路の2b出口に直結しています。

〈東京芸術劇場パートナー協賛企業・団体 ご芳名〉東京芸術劇場の年間事業運営に賛同し、ご支援してくださっている方々です。

アサヒグループホールディングス株式会社	JXTGホールディングス株式会社	凸版印刷三幸会	三菱地所株式会社
住友生命保険相互会社	株式会社資生堂	トヨタ自動車株式会社	株式会社三菱UFJ銀行
Bloomberg L.P.	西武鉄道株式会社	西池袋熱供給 株式会社	ミュージックスタジオ・フォルテ
キッコーマン株式会社	ソニー銀行株式会社	日本生命保険相互会社	ヤマハサウンドシステム株式会社
住友化学株式会社	第一生命保険株式会社	日本電信電話株式会社	有限会社ユーシーベンディング商会
.....	大和証券株式会社	びあ株式会社	養老乃瀧株式会社
アサヒグループ食品株式会社	株式会社竹中工務店	東日本旅客鉄道株式会社 池袋駅	読売新聞東京本社
株式会社イープラス	多摩美術大学	フジテック株式会社	立教大学
ANAホールディングス株式会社	株式会社帝国ホテル	株式会社 フジテレビジョン	株式会社ルミネ 池袋店
オルガノ株式会社	株式会社TBSテレビ	HOTEL URBAN(ホテルアーバン)	レンゴー株式会社
香山壽夫建築研究所	株式会社テレビ朝日	ホテルメトロポリタン	株式会社ローソンエンタテインメント
国際興業株式会社	株式会社テレ・ポーズ	株式会社松尾楽器商会	株式会社 WOWOW
株式会社サンシャインシティ	東京地下鉄株式会社	株式会社 松田平田設計	渡邊建設株式会社
三精テクノロジー株式会社	東京臨海熱供給株式会社	株式会社 松村電機製作所	
サントリーホールディングス株式会社	東武鉄道株式会社	丸茂電機株式会社	
株式会社ジェイアール東日本ビルディング	株式会社東武百貨店	株式会社ミクシィ	
	常盤興業株式会社	三菱重工業株式会社	

他 匿名5法人
2018年9月25日現在

※東京芸術劇場では、パートナー協賛の申し込みを随時受け付けております。詳細は、公式HPをご覧ください。事業調整係担当まで直接お問合せください。 Tel. 03-5391-2116

芸劇 BUZZ vol.25

2018年 10・11・12月号 《編集・発行》東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 《編集・デザイン》COM Works 《印刷》(株)技芸堂

平成30年9月25日発行

芸劇 BUZZ

TOKYO METROPOLITAN THEATRE EVENT INFORMATION

vol.25 2018
10.11.12.



特集・PICKUP

エル・システム・フェスティバル2018
東京ホワイトハンドコーラス

海外オーケストラシリーズ
バリ管弦楽団

パイプオルガンコンサート Vol.23
〜クリスマスに贈る真夜中のミサ〜

シアターオペラvol.12
モーツァルト／歌劇『ドン・ジョヴァンニ』

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー
アトリウムコンサート／
第9回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル
ほか

CALENDAR

10月・11月・12月

脚本・演出:前川知大
「ゲゲゲの先生へ」

RooTSシリーズ
作:寺山修司 上演台本・演出:藤田貴大
「書を捨てよ町へ出よう」

バック・トゥ・バック・シアター
「スモール・メタル・オブジェクト」

芸劇dance
田中泯／勅使川原三郎

東京芸術劇場 野田秀樹 対談 舞踊家 田中泯
芸 術 監 督

エル・システマ・フェスティバル2018 東京ホワイトハンド コーラス

僕らは歌う、歌は踊る 劇場で創る共生社会

聞こえない子どもたちも、見えない子どもたちも、
ひとつの歌を創る——。共生する舞台を目指し、
一步を踏み出した子どもたちと劇場の取り組みを
取材した。

東京芸術劇場では一般社団法人エル・システマジャパンとともに、2017年から、共生社会をめざす芸術活動「東京ホワイトハンドコーラス」を実践している。日曜日、5階の練習場に子どもたちが集う。手話で談笑する姿に目を見張った。指先や腕、視線が猛スピードでリズムカルに小気味よく動く。日常会話が、鍛え抜かれたダンスのようだ。

「ゆうやけこやけ」の練習では、声楽家・コロネりかさんとうろう者演劇俳優・井崎哲也さんが、文字や絵、動きや手話で「小鳥」「鐘」の意味を話す。いい考えの浮かんだ6歳児が一步進み出て、手の動きを編み出した。子どもたちは、歌い手の表情や呼吸の長さ、拍の速さから音楽の要素を汲み取り、「手歌」と呼ばれる表現を創っていく。

2017年の「エル・システマ・フェスティバル」は思わぬ感動に包まれた。11人の聴覚障害の子どもたちが合唱と共演。天高く差し伸べた白い手袋が、南国の蝶のように舞う。美しく機能する手の動き。情感を湛えたまなざし。障害と生きる暮らしが、伝える力を育んだ。南米ベネズエラの、音楽を通した社会教育システム「エル・システマ」。革新的なオーケストラ教育で世界の注目を集めるが、1995年からは多様な障害を包摂する「ホワイトハンドコーラス」も加わる。白い手袋の「手歌」と「声」による舞台だ。

そこで2018年からは「東京ホワイトハンドコーラス」にも、視覚障害の子どもたちの「声」が加わった。音楽療法士で声楽家の土野研治さんは、上体が傾きがちな子どもにも、身体の軸に気づかせ、意識を外に開いていく。「子どもに集中力があり、音にすぐなじむ」と手応えを語った。

歌詞には色彩も歌われる。東京都立文京盲学校の作田佳奈美さんは「全盲の子も小さいうちから色の認識を積み重ねています。盲学校では全盲の子と弱視の子が『これ何色か見て』『赤だよ』と支えあう姿も見られるなど、とても色に興味があります」と話す。見えなくても色が存在する。元来音に敏感である子どもたちは、色彩にもその価値を認め、探求する心を持っている。



共生。見えないけど、聞こえないけど、君はいるよ

だが、見えない子どもと聞こえない子どもは、どうやって助け合い、舞台を創るのだろう。

視覚障害の小学生は「声が届かないなら、僕たちが手話を覚えようか」と考えた。聴覚障害の中学1年生は「見えないのは、できないのとは違う。手歌と声、それぞれができることをすれば、客席から見た舞台はひとつになる。だから心配していません」と自信を見せる。自身もうろう者である指導者の井崎さんは、聴覚障害者と視覚障害者がすもう大会でがっぷり四つに組んだ事例をユーモラスに語った。「今回、違う障害を持つ人に出会い、怖がる子どももいました。けれども同じ空間で過ごし、勇気を得たようです。土俵や舞台などの文化空間で、違う境遇の人と過ごせば、お互いに工夫が生まれる。そこに期待しています」

社会の障壁、ひとつひとつの工夫を丁寧に重ねて

障害者が抱える社会的バリアを、当事者のものではなく、社会全体の課題として取り除く考え方は、今や世界的な動きといえよう*1。東京芸術劇場事業企画課長・鈴木順子は、「東京ホワイトハンドコーラス」の創造発信型の活動*2について「どんな舞台になるのかわかりませんでした。でもやるべきだと確信しました。子どもたちを迎えて初めてわかる障壁も多く、目が覚めるようでした。当事者や専門家から話を聞き、工夫を重ねています」と話す。

手歌を指導するコロネさんは日本とベネズエラをつなぎ、障害と音楽に長く携わってきた。お互いを知り、その場その場で適切な方法を考え出すことが大切だと語る。「誰もが安心して活動できるように、取り残される人がいないように、音楽上も細やかな工夫を積み重ねています。子どもたちと創り上げた舞台に、共生社会のあり方を示すヒントがあるのではないのでしょうか」

12月1日、フェスティバルの主役は子どもたちだ。第1部では、エル・システマの国内3拠点、相馬・大槌・駒ヶ根の子どもオーケストラが東京に集う。第2部の「東京ホワイトハンドコーラス」は、ベネズエラの障害者アンサンブル「ララ・ソモス」と共演。子どもと劇場が一步を踏み出し、共生社会を舞台に創る。新しい感動が生まれる瞬間に、客席から参加したい。

取材・文：小杉圭子

*1: 2006年 国連「障害者権利条約」採択、2016年「障害者差別解消法」施行
*2: 2018年施行の「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」には、障害者の文化芸術の鑑賞機会に加えて創造機会の拡大も謳われた。

エルシステマ・フェスティバル2018 ガラコンサート 詳細はP13へ
12月1日(土) 15:00開演 コンサートホール

出演：エンルイス・モンテス・オリバー(指揮)
相馬子どもオーケストラ 大槌子どもオーケストラ
駒ヶ根子どもオーケストラ(弦楽オーケストラ)
東京ホワイトハンドコーラス(指導・指揮：コロネりか、井崎哲也、土野研治)
栗津礼子(ピアノ) ララ・ソモス(ヴォーカル・アンサンブル)

11月30日(金) 関連レクチャー開催予定

東京芸術劇場 海外オーケストラシリーズ パリ管弦楽団 指揮：ダニエル・ハーディング

パリ管弦楽団で味わう オーケストラの醍醐味

2016年に素晴らしい演奏を披露してくれたパリ管弦楽団がこの秋、再び東京芸術劇場にやって来る。指揮はもちろん、2016年からこのオーケストラの音楽監督を務めるダニエル・ハーディングだ。

パリ管弦楽団と言えば、フランスを代表するオーケストラというだけでなく、ヨーロッパの一流オーケストラのひとつ。パリに新しく完成したコンサートホール「フィルハーモニー・ド・パリ」を本拠地に、ハーディングと共に新しい時代を築いている。オーケストラの各パートに見事なテクニックを持つ演奏家を配し、時に繊細で、時にダイナミックな音楽を聴かせてくれる。オーケストラというひとつの大きな楽器が、様々な音色の変化を伴いながら、音楽を奏でて行く。その華やかさと力強さを同時に体験できるだろう。

今回の来日公演では、19世紀末から20世紀にかけてウィーンで活躍した作曲家の作品が取り上げられる。ひとつはベルクのヴァイオリン協奏曲、もう

東京芸術劇場パイプオルガンコンサートVol.23 ～クリスマスに贈る 真夜中のミサ～

2面のオルガンがいざなう 静謐で素朴な聖なる夜

今年のクリスマス・オルガンコンサートは、前半でドイツの待降節*のコーラル「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」によるバッハの作品、後半はフランス古典期の作曲家シャルバンティエ『真夜中のミサ』を中心としたプログラムです。

『真夜中のミサ』はクリスマス前夜に行われるミサのための曲で、ミサの言葉をフランスのクリスマス民謡(ノエル)の旋律に乗せた、親しみやすい作品です。引用されているノエルは、全体で11曲、今回演奏されるキリエとグロリアの部分だけで5曲です。普段のミサの聖歌に基づく堅い音楽とはひと味違い、一般市民が口ずさむ旋律による作品なので、クリスマスを迎える市中の雰囲気伝わってきます。

オリジナルの楽譜は非常にシンプルで、合唱とアンサンブルのパートがそれぞれ4声部ずつと通奏低音、部分的に楽器の指定があるのはフルート、ヴァイオリンのみなので、演奏する環境に応じて、合唱の人数を増やしたり、それぞれのパートの音域に合う楽器を割り当てたり追加することが可能です。また、随所にノエルによるオルガンの独奏(即興あるいは既存の曲で)を



ひとつはマーラーの交響曲第1番だ。ベルクのヴァイオリン協奏曲では、ヨーロッパを代表するヴァイオリニストと言えるイザベル・ファウストがソロを演奏。ハーディングとの相性も良いだけに、演奏に大きな期待が高まる。マーラーの交響曲第1番は「巨人」というサブタイトルでも知られている。若き日のマーラーの音楽的な野心が詰まった作品で、みずみずしさと共に大きなスケール感を持った交響曲だ。ハーディングの指揮に注目したい。

文：片桐卓也(音楽ライター)

12月16日(日) 15:00開演 コンサートホール 詳細はP14へ
指揮：ダニエル・ハーディング ヴァイオリン：イザベル・ファウスト
管弦楽：パリ管弦楽団
曲目：ベルク／ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」
マーラー／交響曲第1番 二長調「巨人」



挟むよう指示があり、構成の自由度が高い作品です。

ルネサンスからバロックにかけての4声部に分けて書かれたアンサンブル作品は、主要な声部のみを独奏あるいは独唱し、その他の声部は別の楽器あるいは鍵盤楽器で補うということもよく行われていました。2005年の芸術クリスマスコンサートでは、ソプラノ独唱、小型の弦楽器であるトレブル・ガンバとオルガン(フルートはオルガンのフルート・ストップで)という最もシンプルな編成で演奏し、たいへん好評をいただきました。今年はどのような形の演奏になるのか、どうかお楽しみにご来会下さい。

文：小林英之(東京芸術劇場オルガニスト)

*アドヴェント、クリスマスの準備期間。クリスマスの4つ前の日曜が第一アドヴェント。

12月20日(木) 19:00開演 コンサートホール 詳細はP14へ
オルガン：小林英之 新山恵理 ソプラノ：広瀬奈緒 ヴィオラ・ダ・ガンバ：福沢宏
曲目：J.S.バッハ／コーラル「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」BWV659,660,661
シャルバンティエ／『真夜中のミサ』より「キリエ」、「グロリア」ほか

東京芸術劇場シアターオペラvol.12 全国共同制作プロジェクト モーツァルト 歌劇『ドン・ジョヴァンニ』全幕 (新演出、英語字幕付、日本語上演)

インタビュー 総監督・指揮 井上道義

日本のオペラの新たな時代は、 日本語が開く

幼子が歌うとき、その身体は期せずして揺れ踊る。
歌と踊りは本来渾然一体。オペラが日本語ならば、
日本人の身体は自然と音楽に呼応するのではないか。

わざわざ日本語でオペラをやる

オペラは、観ている人が音楽に身を任せてその世界に入っていければ面白いものになるけれど、演技が下手だとか、衣裳に違和感を感じ始めたら直ぐに陳腐なものになってしまう。「舞台という不自然さ」をどうやって飛び越えてもらえるか。そこが指揮者、演出家、歌手に課せられている仕事のすべてだ。そのためにはどんな手段を採ってもいいと僕は思っているけれど、音楽の中に秘められてないメッセージを無理やり「新しい見方」とか言って入れ込むことは、悪趣味な仕業だと思っている。

勿論、「音楽さえ良ければいい」という気はないが、最終的に、人が「感動する」とは、「音楽が何かを時空を超えて運んできた時」であって、演出が素晴らしい、ということによる感動のたぐいは、オペラの中心ではないのではないかと、とも思っている。それは野田秀樹君と《フィガロの結婚》をやったときにも、彼が「本当にいい歌をやっているときは演出したくなくなる、立って歌ってくれ。俺はここ何もしないから」というようなことを彼が練習中、3か所ぐらいで言ったこと、よくそこに気がついてくれたなと思った記憶もある。

評論家が目新しい演出ばかりを賞賛するのもおかしいと思う。クラシック音楽なんて、新しいことやろうと思ったら死んだほうがマシなんだ、新しく見えることをするだけ、新しいふりをするだけ。そこを間違っちゃいけない。

今は字幕も楽に見られる技術があるのだから、日本語でオペラをやるのは本流から外れるイメージがあるけれど、逆に『こういうことをやるのだったら日本語じゃなきゃ無理だね』というところまで行きたい。欧米の複数の劇場で、今でも母国語に訳して上演している現実と多少意味が違う。今回は、歌手に日本語のできるロシア人とウクライナ人の二人がいる。そういう時代なのということも表現してみたい。しょうがないから日本語でやるのではなく、『わざとそういうことをやるのにどういう意味があるのか?』ということ

をお客さんも一緒にいろいろ感じてもらえたら、というこれはオタッキーな試みです。

2019年1月26日(土)・27日(日) 14:00開演 コンサートホール 富山、熊本公演あり 詳細はHPへ
総監督・指揮:井上道義 演出・振付:森山開次 管弦楽:読売日本交響楽団 合唱:東響コーラス
ドン・ジョヴァンニ:ヴィタリ・ユシュマノフ レポレツロ:三戸大久 ドンナ・アンナ:高橋絵理 騎士長:デニス・ビシュニャ
ドンナ・エルヴィーラ:鷲尾麻衣 ドン・オッターヴィオ:金山京介 ツェルリーナ:小林沙羅 (1月26日出演)、藤井玲南 (1月27日出演)
マゼット:近藤圭
ダンサー:浅沼圭 碓井菜央 梶田留以 庄野早芽子 中村里彩 引間文佳 水谷彩乃 南帆乃佳 山本晴美 脇坂優海香

日本語でやる 難しさの意味

オペラにはハーモニーがついていて、和音や調性は、それぞれの情緒を持っている。ところが日本語とイタリア語は語順が逆なことが多いから、そのまま日本語をはめ込むとハーモニーとのバランスが不自然になる。だからといってハーモニーを変えてしまったら、それは音楽の方向性を変えてしまうことになる。だから日本語の方を色々動かして、言わんとする内容を通じるようにするという大変な作業が必要なわけ。でもそんなことをお客さんは知らなくていい。その場その場で、響きと言葉の意味が一瞬のうちに理解出来る、という気持ち良さを楽しんでもらうことが、『わざわざ日本語でやる意味』だと思う。
だからある意味イタリア語がわかるお客さんをターゲットとしてはいないのかもしれない。かといって、古い浅草オペラのようにする気は毛頭ない。オペラをやりたいけど色々無理だったあの時代、まずはオペレッタをやった、それとも思っきり翻訳して言葉使いなども当時の日本人のセンスに合うものに作り変えちゃったでしょう?そういう落とし込みを今回やる気はないです。生活の底が高くなった今の時代にやる必要はないから。

これは日本のオペラへのひとつの提案

それと!今回は、ダンサーたちと一緒に歌手も動いてもらう、踊ることさえも。今回オーディションで選んだ人たちは逆立ちしても声が出るし寝転がっても歌える。日本人のオペラは、こういった方向に行くべきなんじゃないかという提案です。往年のイタリアオペラと同じ方法を追えば、日本語が喋れなくなるぐらいイタリア語が喋れなきゃいけないし、歩き方から、ひょっとしたら顔まで変わらなとおかしいかも。体格的にも細めな日本の歌手が真似しても、無理ばかりが目立つ。

今回は日本語でやることに加えて、体の言葉、ボディーラングウィッジと、世界語を目指す音楽語の、云わばバイリンガルで歌を捉えるという方向をも目指しています。これは日本人に限らずオペラが進むべき突破口のひとつじゃないかと思う。もっと良い方法もあるのかも知れないけれど、僕自身もいくつか演出してきたこの方向で長年やってきて、演じる人たちも観る人たちも面白がってくれている。

ダンスや踊りをオペラに深く突っ込む方法は、「コラボ」とか呼ぶ簡単なことじゃない。オペラにダンスがちゃんとして来ることは、僕は『革命』だと思っている。その上僕ははまだまだオペラの開拓時代にいるのだとも思っている。間違った意味での〈古典〉でなく。

演出の森山開次さんは、とんでもなくいい才能です。この方法は僕がくたばったあとでもずっとやれると思うので、第1回ぐらいは一緒にちゃんとやりたい。彼には「この方向でどんどんやってよ」とこれからを託したいと思っています。

取材・構成:河野典子(音楽評論家)



芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー アトリウムコンサート

10・11・12月 各回12:15開演 アトリウム

詳細はHPへ



2017年に大好評を得たアトリウムコンサート、今年も開催! 陽の光が射し込む開放的なアトリウム空間で、気軽に生の音楽を楽しめるミニコンサートです。演奏するのは、若手演奏家育成プロジェクト「芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー」のメンバーと、国内随一の吹奏楽団、東京佼成ウインドオーケストラの団員。誰もが知る名曲から通好みの異色作まで、さまざまな楽曲をお届けします。

10月2日(火)／10月16日(火)／10月30日(火)／11月28日(水)
12月4日(火)／12月12日(水)／12月20日(木) 各回30分

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー
@geigeki.wind.orchestra.academy

「街角LIVE!」も開催!

アカデミー生が劇場を飛び出し、都内各所で
無料アンサンブル公演「街角LIVE!」を開催します。

第9回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル2018

11月25日(日)・12月8日(土) 15:00開演 コンサートホール

詳細はP12・13へ



首都圏の9つの音楽大学が集い、学生たちの交流と育成を図る「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」。音大生の日ごろの研鑽の成果を披露する場として、今年で9回目を迎えます。一流の指揮者のもと各校が熱演を繰り広げるさまは、まさに若さで情熱の祭典。気になる大学を選んで聴くもよし、全大学を聴き比べるもよし。未来ある若者たちが放つ、きらめきに満ちた響きを、ぜひお聴きください。

■ミューザ川崎シンフォニーホール

2018年11月24日(土)
東京藝術大学(指揮:梅田俊明) & 武蔵野音楽大学(指揮:北原幸男)
2018年12月1日(土)
昭和音楽大学(指揮:齊藤一郎) & 国立音楽大学(指揮:現田茂夫) & 洗足学園音楽大学(指揮:秋山和慶)

■東京芸術劇場 コンサートホール

2018年11月25日(日)
上野学園大学(指揮:清水醒輝) & 桐朋学園大学(指揮:沼尻竜典)
2018年12月8日(土)
東京音楽大学(指揮:広上淳一) & 東邦音楽大学(指揮:大友直人)

前橋汀子 ヴァイオリン with 弦楽アンサンブル 秋のデライト・コンサート Vol.6

11月1日(木)11:30開演 コンサートホール

詳細はP11へ



6回目を迎える前橋汀子によるデライト・コンサート。今年はピアノや弦楽カルテットを迎えて、秋らしい聴き馴染みの名曲を、ヴァイオリンの音色と共にお届けします。平日の昼間、ショッピング、ランチ、お待ち合わせの前に、気軽にヴァイオリンの名曲に耳を傾けてみてはいかがでしょう。

ヴァイオリン:前橋汀子 ピアノ:松本和将 シンセサイザー:丸山貴幸
弦楽カルテット:執行恒宏／伝田正秀／小倉萌子／門脇大樹 【お問合せ】カジモト・イープラス 0570-06-9960

エフゲニー・キーシン ピアノ・リサイタル

11月14日(水)19:00開演 コンサートホール

詳細はP11へ



音楽性、解釈の深みと詩的な資質、そして並外れた技巧を併せ持つ、才能あふれるピアニスト エフゲニー・キーシン4年ぶりの来日公演。プログラムにはベートーヴェンのピアノ・ソナタの頂点「ハンマークラヴィーア」、ラフマニノフの粹を結集した「前奏曲集」と、ピアノを知り尽くした大家の名作が並び、進化を止めぬ駿才の名演を堪能したい。

ピアノ:エフゲニー・キーシン

【お問合せ】ジャパン・アーツぴあ 03-5774-3040

フィルハーモニクス ウィーン=ベルリン

12月14日(金)19:00開演 コンサートホール

詳細はP13へ



ウィーン・フィルをベースに、ベルリン・フィルの名手など超絶技巧と幅広い音楽性を誇る7人による、最高のクリスマス・エンターテインメント! そのエキサイティングな演奏は、ウィーンをはじめ世界各地で熱い反響を呼んでいる。クラシックからジャズ、ラテンまで、あらゆるジャンル、時代を超越する、彼ら凄腕アンサンブルの演奏をお聴き逃しなく!

出演:フィルハーモニクス ウィーン=ベルリン

【お問合せ】ジャパン・アーツぴあ 03-5774-3040



Art Direction / Illustration: 森本千絵 (igwen) / Design: 高橋亮 (igwen)

東京芸術祭2018芸術オータムセレクション

ゲゲゲの先生へ

原案:水木しげる 脚本・演出:前川知大

水木しげる × 前川知大 “奇怪ダブル”の興奮

怪奇漫画の巨匠、水木しげるの世界に、
前川知大が着手。その人生観、
作品に込めたメッセージを丁寧にすくい上げた、
オリジナルストーリーの誕生だ。

いつしか影響され、近づいていった創作の視点

主宰する劇団イキウメを中心に、超常の出来事に焦点を合わせ、作品を発表し続けている劇作家・演出家の前川知大。胸騒ぎを誘うSF的世界観で観客を魅了する彼と、漫画家・水木しげるとの結びつきは、極めて必然に感じられる。「自分が多大な影響を受けてきたものについて題材にしようと思っていた」と語る前川に、水木作品との不思議な縁について聞いた。

「家に水木先生の本『妖怪大百科』があって、それを小学生の頃から目にしていました。自然と先生の描いた妖怪たちを身近に感じていました。今回の上演のために未読の作品や自伝的エッセイなどをまとめて読んでいくなかで、先生のお人柄にあらためて興味を持ちましたね。戦争に行った際、戦地の島の人たちと仲良くなって、その素朴な生活様式に感銘を受けた。“人間はこうあるべき”と感じて戦後、日本に戻って暮らすけれど、故郷の風景はほとんどん変化していった…。

先生はいわゆる文明批判を込めて、逆説的に“都市が自然によって破壊される”といった内容の漫画を多く描かれているんですね。で、よく考えてみたら自分もそういったモチーフで、自然によって都市の文明が一回引き戻されるといった作品を、イキウメで書いてきているなど。絶対に僕がどこかで影響を受けて、勝手に近づいていったように思うんです」

近未来に現れた、ねずみ男が見た日本とは

前川が最も共感を覚えたのは、水木が本来抱いていた「妖怪の姿は本当は見えない。ただ感じるもの」とする価値観だという。「見えなくても存在することを皆に伝えるために、絵描きで自分の使命として、形にしよう。それで柳田國男の『妖怪談義』や鳥山石燕の妖怪画を参考にして、妖怪キャラクターを生み出した。その考え方は本当にすごいなと思う」と、自身の作劇にも通じる思考に強くなずく。今回の『ゲゲゲの先生へ』も、その“見えないもの”への熱い思いを核に、水木の短編作品やエッセイからエピソードを抽出して書き下ろした物語だ。

「水木先生の一番好きだったキャラクター、ねずみ男が主人公です。ねずみ男は人間と妖怪の間に生まれた“半妖怪”で、本作では根津という男になって佐々木蔵之介さんが演じます。設定は今から30年後、平成60年の、もう妖怪が住めない世界になってしまった日本。語り部となる根津の、過去の回想



から現れた妖怪たちが、もう一度、自分たちの生きる場所を取り戻すべく立ち上がろうとするんですね」

見えないけれど存在するものへの畏怖

キャストには、早くから前川ワールドに心酔し、その確かな演技力でともに『抜け穴の会議室』や『スーパー歌舞伎II 空ろ刻ム者』などの舞台作りを重ねてきた佐々木蔵之介を筆頭に、清澄と妖艶、両方の美を兼ね備えて映像のみならず話題の舞台に立ち続ける実力派、松雪泰子。若き勢いに期待のかかる新鋭、水田航生と水上京香。唯一無二の個性と実力で深い味わいを残す巧者、手塚とおる 池谷のぶえ。そして浜田信也、盛隆二、森下創、大窪人衛のイキウメ精鋭陣。さらにはライフワークとしていた怪奇朗読劇『百物語シリーズ』を完走し、圧倒的な存在感で観客を吸引する白石加代子まで、水木×前川の“奇怪ダブル”に立ち向かうに不足のない、最高の布陣が整った。怖れと興奮が交錯する、演劇でしか味わえない新たな“水木しげるの世界”。五感、いや第六感までも尖らせて、目撃してほしい。

「舞台上の暗闇の中にも何かがある…、そんな感覚だけでもお客さんには持ち帰ってもらえたら。恐怖というよりは、畏怖。恐れ多いという感覚ですね。人間だけがこの世界を好きに作り変えていいわけじゃない。自然や、自分たちとは違う存在に対する畏怖の心を忘れないでほしいなど。そんな舞台にできたら、たぶん水木先生にも怒られないだろうと思います(笑)」

取材・文:上野紀子(演劇ライター)

10月8日(月・祝)～21日(日) プレイハウス

詳細はP9へ

原案:水木しげる 脚本・演出:前川知大
出演:佐々木蔵之介 松雪泰子 水田航生 水上京香
手塚とおる 池谷のぶえ 浜田信也 盛隆二
森下創 大窪人衛 白石加代子

松本、大阪、豊橋、宮崎、北九州、新潟公演あり

特設サイト www.gegege-sensei.jp



前川知大

Roots Series

書を捨てよ町へ出よう

作:寺山修司 上演台本・演出:藤田貴大(マームとジブシー)

没後35年を迎えた今、 再び寺山修司に挑む

マームとジブシーを主宰する演劇作家・藤田貴大が、
寺山修司『書を捨てよ町へ出よう』を再び上演する。
3年のときを経て、上演に向けた新たな構想を語る。

パリ公演を見据え、寺山作品を再演する

藤田が『書を捨てよ町へ出よう』を舞台化したのは2015年のこと。その当時から、いつかこの作品をパリで上演したいと考えていたのだと藤田は振り返る。その背景には、公演直前に起きたパリ同時多発テロ事件がある。そこでターゲットとされた場所の一つは劇場だった。

「他の作品であれば再演することに慎重な部分もあるんですけど、この作品に関しては初演の段階から再演のしがいがあるなと思っていたんです。あのときは主人公の『私』がライフルを構えているシーンから始まって、その目に涙が浮かんでいる——それをパリで上演すると、全然違うモチーフが生まれるんじゃないかと思ったんですよね」

3年ぶりの再演となる今作は、10月に東京芸術劇場で上演したのち、上田、三沢、札幌、パリを巡演する。海外公演を想定して藤田がクリエイションに挑むのは、2013年の『てんとてんを、むすぶせん。』からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことになった、世界。および、ひかりについて。』以来だ。それは彼らにとって初めての海外公演だった。

「『てんとてん〜』という作品は、世界中のどこの町でもありうる出来事を描いていたんですけど、それを『書を捨てよ町へ出よう』で描けたらと思うんです。アメリカっていうものに抗おうとして、それでも結果的に受け入れざるをえないという挫折感を抱えた若者たちがいる——その響が今のヨーロッパでどう響くのか、興味がありますね」

70年代の新宿、その細部に宿るざらつき

再演にあたって藤田が意識するのは、寺山修司が『書を捨てよ町へ出よう』を発表した1970年前後の新宿だという。

「これは昭和感を出したいってことではないんですけど、平成が終わる今、昭和の新宿を描いてみると、もしかしたら海外に通用する部分があるんじゃないかと漠然と思っている部分もあるんです。初演のときは昭和臭さみたいなものを排除し過ぎていた気がするんですけど、細かいディティールにこそ、主人公の『私』が抱えたざらつきがあると思うんですよね」

初演のときにキーワードとなっていたのは「コラージュ」だった。一見すると脈絡がないようにも思えるシーンが並列された映画版『書を捨てよ町へ出よう』を観た藤田は、「自分のほうがうまくコラージュできる」と豪語し、すべてのシーンを一度解体し再編集した。あれから3年経った今、「あのときは



イラストレーション:宇野紀喜良 A D:北久保子 撮影:井上光由紀

ちょっと乱暴だったかも」と藤田は笑う。

「これまで僕は、物語っていうことを嫌がっていたんだと思うんです。寺山さんの映画も、ポストドラマというよりポストストーリーで、物語ることに唾を吐いてる部分がある。だから『書を捨てよ町へ出よう』にもほとんどストーリーはないけど、そこを僕が補ってもいいのかなと思っています。たとえば何かを殺すシーンがあったとして、新宿のどこで殺すのか、何で殺すのかをストーリーで補うことで、全然手触りが違うと思うんですよね」

長過ぎる人生を、演劇で立ち止まる

藤田は7月にプレイハウスで新作『BOAT』を上演したばかりだ。そのエピソードでは「ただ、時代だけが存在するのだった」という台詞が語られていた。寺山修司が時代と格闘したように、藤田も常に時代を意識して作品を描き続けている。毎日のように悲惨なニュースが溢れる今、演劇に何が可能かと自問自答を繰り返す。

「最近、人生って長過ぎるなと思うことがあるんです。禍々しい事件が起こるたびに嫌悪感を抱くんだけど、それと同時に『この犯人はものすごく暇だったんだな』とも思う。ある事件のために道具を準備して、計画を練って——それは暇じゃないと実行できないですよ。それで言うと、劇場に足を運ぶってことも時間に余裕がないとできないことだけど、長過ぎる時間をどう消費するかってときに、演劇を観るっていう立ち止まり方をしてくれる人がいる。それが僕にとって唯一の希望なんですよ」

取材・文:橋本倫史(ライター)

10月7日(日)～21日(日) シアターイースト

詳細はP9へ

作:寺山修司 上演台本・演出:藤田貴大(マームとジブシー)

出演:佐藤絆美 青柳いづみ 川崎ゆり子 佐々木美奈 召田実子
石井亮介 尾野島慎太郎 辻本達也 中島広隆 波佐谷聡 船津健太
山本達久

映像出演:穂村弘(歌人) 又吉直樹(芸人) 佐々木英明(詩人)

パリ公演 ～ジャポニスム2018公式公演～

11月21日(水)～24日(土) パリ日本文化会館 ※フランス語字幕あり

上田、三沢、札幌公演あり 特設サイト www.geigeki-fujita2018.com

東京芸術祭2018芸劇オータムセクション
バック・トゥ・バック・シアター
スモール・メタル・オブジェクト
演出：ブルース・グラッドウィン

人間の「生産性」について問うユニークな市街劇

世界中で話題を振りまいているオーストラリアのバック・トゥ・バック・シアターが、5年ぶりにやって来る。『スモール・メタル・オブジェクト』は、その名の通り「小さな金属性のモノ」にすぎない「お金」に執着し、振り回され、個人の尊厳さえ踏みにじる人間というものを、現実の人混みの中で見つめてみるという、シニカルでハプニング性に富む仕掛けがほどこされた人気作だ。

日常のモヤモヤを抱えるスティーブに、友人のゲイリーが「いい話」を持ちかけたことから、2人は、大金を動かすエリート気取りの人物たちの、切迫した取引に巻き込まれる——。知的障害を持つとされる俳優たちと、彼らが置かれた状況を共有しながら創作されるドラマは、ほんわかしたユーモアを保ちながら、虚を突くように社会の偽善に鋭く斬り込む市街劇だ。今回舞台となるのは、東京芸術劇場前の池袋西口公園。観客は、雑踏に紛れて怪しげな



©Jeff Busby

やり取りを展開する彼らの会話をヘッドフォン越しに聞きながら、公園を歩き交う人たちが彼らに向ける視線ごと、その現場を観察する。何でも起こりそうな池袋の街中で、果たしてスティーブとゲイリーの安全は守られるのだろうか!?

文：伊達なつめ(演劇ジャーナリスト)

10月20日(土)～29日(月) 池袋西口公園 詳細はHPへ
演出：ブルース・グラッドウィン
出演：サイモン・ラフティ ソニア・テューベン ほか
料金：【全席自由】一般・前売 3,000円ほか(ヘッドフォン付) ※対象年齢15歳以上

芸劇dance
田中泯
ーオドリに惚れちゃって!ー「形の冒険」

ダンサー田中泯のドキュメンタリー映画を製作中の
犬童一心監督による特別寄稿

永遠のインデペンデント

2004年『黄泉がえり』という作品で、日本アカデミー賞の会場にいた。『メゾン・ド・ヒミコ』の準備中だった私は、伝説的なゲイバーのマダム、ヒミコのキャスティングに苦慮していた……。ふと、顔を上げると、二つ置いた、先のテーブルに座る男性が目止まる。ページュのスーツにノーネクタイ、ひっそりと肩を落としてうつむいている。私は目が離せなくなった。この人ならヒミコができる、とすぐに思った。が、その静穏な佇まいから俳優とは思えず、何かの関係者だと思い込んだ。ああ、どうしよう、と思っていると、「次のプレゼンターは昨年、『たそがれ清兵衛』で最優秀助演男優賞を受賞された田中泯さんです」「えっ、うそ」私は動揺する。

脚本を気に入ってくれ、初めて会った日、泯さんは言った。「僕は、演技ができません。ただ、そこに、一生懸命いることはできます。それでも良いですか?」この最初の言葉こそ今思えば田中泯の多くを語っていると思う。



©Yoshie Tomimaga

今、私は泯さんのドキュメンタリーを作りつつある。去年のポルトガルから始まり、その踊りを随分と撮影した。泯さんは、「舞踏」の踊り手ではない。自分の踊りをただ「踊り」だという。何のジャンルにも属さない永遠のインデペンデント。だから自由。今、私は、自由を必死に追っている。タイトルは『名付けようのない踊り』。フランスの哲学者ロジェ・カイヨワ氏が泯さんの踊りを見たときの感想からいただいた。彼は、泯さんに言った。「永遠に名付けようのない踊りを続けてください」

文：犬童一心(映画監督)

11月23日(金・祝)～25日(日) シアターイースト 詳細はP12へ
出演：田中泯

芸劇dance
勅使川原三郎
「月に憑かれたピエロ」「抒情組曲」

ダンスと音楽の刺激的なコラボレーション

勅使川原三郎のダンスを見ること、それは唯一無二の美的体験だ。身体の速度と重心を精妙に操作して空間を自在に変容させる舞踊はもちろん、自身で照明、美術も手掛け、選曲にもこだわり、ノイズ、クラシック、笙の調べから完全な無音まで、あらゆる音に挑み、勅使川原は舞踊の地平を拡張してきた。今回は、アルノルト・シェーンベルクの歌曲『月に憑かれたピエロ』(1912)と、アルバン・ベルクの弦楽四重奏曲『抒情組曲』(1925-26)で踊る。

「月に憑かれたピエロ」とは、19世紀にヨーロッパのバントマイム劇で流行した主題。月(狂気の隠喩)に魅入られたピエロの幻想を語る詩を、朗読と歌唱を混ぜた独特の歌唱法で歌う、驚くほど前衛的な楽曲だ。CDもリリースし、この作品で特に高い評価を誇るソプラノ歌手マリアヌ・ブスールが、本上演のために来日。2011年のラ・フォル・ジュルネで観客を圧倒した歌声と

12月1日(土)～4日(火) プレイハウス
演出・振付・照明・美術・衣装：勅使川原三郎
出演：勅使川原三郎、佐東利穂子(ダンス) マリアヌ・ブスール(歌) ハイメ・ウォルフソン(指揮) 多久潤一郎(フルート) 岩瀬龍太(クラリネット) 田口真理子(ピアノ) 松岡麻衣子、甲斐史子(ヴァイオリン) 般若佳子(ヴィオラ) 山澤慧(チェロ)



photo by Akihito Abe

ダンスとの対峙が、再びスリリングな美を生み出すに違いない。
『抒情組曲』は新作ダンス。楽曲は1920年代にシェーンベルクが完成させた12音技法を用いるが、ワーグナーの一節やボードレールの詩の引用を行い、至高の美の理想と醜悪な現実の間で引き裂かれた19世紀の時代意識を共有する。この2作品の絶妙な取り合わせにも期待が高まる。
両曲とも、出演は勅使川原と佐東利穂子。勅使川原のメソッドを身に付け、近年新たな段階へ進む佐東は、年初に平成29年度(第68回)芸術選奨文部科学大臣賞、日本ダンスフォーラム賞を受賞した、いま最も見逃せないダンサー。音楽ファン、ダンスファン、そして現代美術ファンも、五感を刺激される必見の舞台だ。

文：岡見さえ(舞踊評論家)

詳細はP13へ

COMING UP NEXT 2019. 1-3

演劇・ダンス ラインナップ

1月 シアターイースト
芸劇+トーク
朗読「東京」

2月2日(土)～2月24日(日)
シアターイースト
「Le Père 父」
作：フロリアン・ゼレール
演出：ラディスラス・ショラー



2月7日(木)～10日(日)
シアターウエスト
芸劇dance
ニブロール
「悲劇のヒロイン」
作・演出：振付：矢内原美邦

2月27日(水)～3月10日(日)
シアターイースト
芸劇eyes
ブス会＊
「エーデルワイス」
作・演出：ペヤンヌマキ

3月8日(金)・9日(土)
コンサートホール
ダンス・コンサート
「スターズ・イン・ブルー」

2月24日(日)～3月17日(日)
プレイハウス
「世界は一人(仮)」
作・演出：岩井秀人

3月
シアターイースト
芸劇eyes
ベッド&メイキングス
「こそぎ落としの明け暮れ」
作・演出：福原充則



撮影：Michael Poehn

10 OCT▶

1月2火3水4木5金6土7日8月祝9火10水11木12金13土14日15月16火17水18木19金20土21日22月23火24水25木26金27土28日29月30火31水

東京芸術劇場ボックスオフィス0570-010-296

東京芸術劇場ホームページwww.geigeki.jp

休館日・1日(月)・15日(月)

Concert Hall

3日(水) 19:00開演

東京芸術劇場presents
井上道義&読売日本交響楽団
マーラー／交響曲第8番『千人の交響曲』

出演 井上道義(Cond)／菅英三子、小川里美、森麻季(S)／池田香織、福原寿美枝(A)／フセヴォロド・グリフノフ(T)／青戸知(Br)／ステイーヴン・リチャードソン(Bs)／首都圏音楽大学合同コーラス／TOKYO FM 少年合唱団／福島章恭(合唱指揮)／読売日本交響楽団

曲目 マーラー／交響曲第8番『千人の交響曲』

料金 S:7,000円／A:6,000円／B:5,000円／C:4,000円／D:3,000円／高校生以下:1,000円*

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

6日(土) 14:00開演

東京芸術劇場Presentsプラスウィーク2018
東京佼成ウインドオーケストラ 第140回定期演奏会

出演 秋山和慶(Cond)／本間千也(Tp)／東京佼成ウインドオーケストラ

曲目 リード／法華経から三つの啓示
ジョリヴェ／トランペット協奏曲第2番
ヴァンデルロースト／アルセナール
クレストン／プレリウドとダンス
長生淳／トリトン

料金 S:6,000円／A:4,500円／B:3,500円／C:1,500円

問合せ 東京佼成ウインドオーケストラ事務局 03-5341-1155

7日(日) 14:00開演

合唱団鯉 第70回定期演奏会

出演 黒岩英臣(Cond)／清水梢、藤崎美苗(S)／谷地敬晶子、金田久美子(A)／与儀巧、高柳圭(T)／与那城敬、大槻聡之介(Bs)／クライネス・コンツェルトハウス管弦楽団／合唱団鯉

曲目 メンデルスゾーン／エリヤ

料金 S:4,500円／A:3,500円／B:2,500円／学生・車椅子:1,000円

問合せ 合唱団鯉 090-9374-7207

Playhouse

~2日(火) 15:00開演

美輪明宏の世界
~愛の大売り出し2018~

構成・演出・出演 美輪明宏

演奏 セルジュ染井アンサンブル

浜田信也 盛隆二 森下創 大窪人衛 白石加代子

料金 【全席指定】S:9,000円／A:7,000円

問合せ パルコステージ 03-3477-5858

Theatre East

7日(日)~21日(日)

RooTS Series「書を捨てよ町へ出よう」
寺山修司没後35年記念

作 寺山修司 上演台本・演出 藤田貴大(マームとジプシー)

出演 佐藤耕美 青柳いづみ 川崎ゆり子 佐々木美奈 沼田実子 石井亮介 尾野島慎太郎 辻本達也 中島広隆 波佐谷聡 船津健太 山本達久

映像出演 穂村弘(歌人) 又吉直樹(芸人) 佐々木英明(詩人)

料金 一般前売:4,800円／一般当日:5,300円／65歳以上:4,300円*／25歳以下:3,800円*／高校生以下:1,000円*

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

Theatre West

~4日(木)

「一初恋2018」

作 土田英生 脚色 横山拓也 演出 大江祥彦

出演 モロ師岡／デビット伊東／伊藤裕一／小島梨里杏／麻丘めぐみ ほか

料金 【全席指定】一般:6,800円

問合せ チケットスペース 03-3234-9999

5日(金) 19:00開演

馬遊・喬太郎 二人会

料金 【全席指定】3,600円 問合せ いがぐみ 03-6909-4101

8日(月・祝) 14:00開演

新交響楽団 第243回演奏会

出演 飯守泰次郎(Cond)／新交響楽団

曲目 ワーグナー／歌劇『ローエングリン』より 第1幕への前奏曲、第3幕への前奏曲
ブルックナー／交響曲第7番

料金 S:3,000円／A:2,500円／B:1,500円

問合せ コンサートイマジン 03-3235-3777

11日(木) Closed・関係者のみ

日本テレビ「読響シンフォニックライブ」公開録画

12日(金) 19:00開演

創価学会富士交響楽団 新時代第9回定期演奏会

出演 飯吉高(Cond)／創価学会富士交響楽団

曲目 シベリウス／交響詩「フィンランディア」
ポロディン／歌劇『イーゴリ公』より「ダッタン人の踊り」
ベートーヴェン／交響曲第6番「田園」

料金 【全席指定】無料(事前応募制、9月3日締切)

問合せ 創価学会富士交響楽団 03-3353-7111

13日(土) 14:00開演

東京都交響楽団 第862回定期演奏会

出演 大野和士(Cond)／リーズ・ドウ・ラ・サール(Pf)／東京都交響楽団

曲目 ヘルリオース／序曲《ローマの謝肉祭》
ドビュッシー／管弦楽のための《映像》より「イペリア」
ラヴェル／ピアノ協奏曲、バレエ音楽《ダフニスとクロエ》第2組曲

料金 S:7,500円／A:6,500円／B:5,500円／C:4,500円／Ex:3,500円

問合せ 都響ガイド 0570-056-057

8日(月・祝)~21日(日)

東京芸術祭2018芸術オタムセレクション
ゲゲゲの先生へ

原案 水木しげる 脚本・演出 前川知大

出演 佐々木蔵之介 松雲孝子 水田航生 水上香香 手塚とおる 池谷のぶえ
浜田信也 盛隆二 森下創 大窪人衛 白石加代子

料金 【全席指定】S:8,000円／A:6,500円／25歳以下(A):5,000円*／65歳以上(S):7,000円*／高校生以下:1,000円*

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

	10月	8月	9火	10水	11木	12金	13土	14日	15月	16火	17水	18木	19金	20土	21日
13:00							☆	★						●	●
14:00		●			●							▲			
18:00						●		休演							
19:00				●	●	●					▲	▲	★		

☆:視覚障害者のための「舞台説明会」実施(要予約)
★:聴覚障害者のための「ポータブル字幕機提供」実施(要予約)
▲:収録のため場内にカメラが設置されます。予めご了承下さい

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケット取扱いのある公演(取扱いのない券種もございます)・プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。・原則未就学児のご入場はお断りしています。・*は劇場ボックスオフィスで前売のみ取扱い。・年齢割引チケットは枚数限定・要証明書。

20日(土) 14:00開演

読売日本交響楽団 第211回 土曜マチネーシリーズ

出演 ジョヴァンニ・アントニーニ(Cond)／アヴィ・アヴィタル(Mand)／読売日本交響楽団

曲目 ヴィヴァルディ／ドレスデンの楽団のための協奏曲、
マンドリン協奏曲、リコーダー協奏曲
J.S.バッハ／マンドリン協奏曲BWV1052
ハイドン／交響曲第100番「軍隊」

料金 S:7,500円／A:5,500円／B:4,500円／C:4,000円

問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

21日(日) 14:00開演

読売日本交響楽団 第211回 日曜マチネーシリーズ

出演 ジョヴァンニ・アントニーニ(Cond)／アヴィ・アヴィタル(Mand)／読売日本交響楽団

曲目 ヴィヴァルディ／ドレスデンの楽団のための協奏曲、
マンドリン協奏曲、リコーダー協奏曲
J.S.バッハ／マンドリン協奏曲BWV1052
ハイドン／交響曲第100番「軍隊」

料金 S:7,500円／A:5,500円／B:4,500円／C:4,000円

問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

22日(月) 19:00開演

西本智実指揮・ヴァチカン国際音楽祭2018記念・ヴェルディ「レクイエム」

出演 西本智実(Cond)／高橋美咲(S)／野上貴子(A)／二塚直紀(T)／榎貴志(Br)／イルミナート合唱団／イルミナートフィルハーモニーオーケストラ

曲目 ヴェルディ／「レクイエム」
グノー／「聖テチーリア荘厳ミサ曲」より

料金 S:5,000円／A:4,000円

問合せ 公演お問い合わせ 03-3593-3221

27日(土)~28日(日) 15:30開演

東京芸術祭2018直轄プログラム
「ガラスの動物園」

作 テネシー・ウィリアムズ 演出 ダニエル・ジャンヌトー

出演 ソレーヌ・アルベル／ピエリック・プラティエール／ドミニク・レイモン／オリヴィエ・ヴェルネル／ジョナタン・ジュネ(ビデオ出演)

料金 【全席自由】一般…前売:3,500円／当日:4,000円
U29…前売:2,000円／当日:2,500円 ※未就学児入場不可

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

25日(木)~28日(日)

東京芸術祭2018
フェスティバル/トーキョー18
マレビトの会「福島を上演する」

作・演出 マレビトの会

出演 アイダミツル／生実慧／石渡愛／加藤幹人／上村梓／桐澤千晶／酒井和哉／佐藤小実季／島崇／田中夢／西山真来／三間旭浩／山科圭太／弓井茉那／吉澤慎吾／米倉若菜

料金 【全席自由】前売…一般:4,000円／ベンチシート:3,000円
当日…一般:4,500円／ベンチシート:3,500円
前売当日…学生:2,600円／高校生以下:1,000円／4回セット券…14,000円 ほかセット券あり

問合せ F/Tチケットセンター 03-5961-5209

18日(木)~21日(日)

劇団山の手事情社公演
「うリアしまたる王」
(シェイクスピア『リア王』より)

構成・演出 安田雅弘

出演 山本芳郎／倉品淳子／浦弘毅／大久保美智子／川村岳 斉木和洋／越谷真美／安部みはる／谷洋介／中川佐織 ほか

料金 【全席指定】前売…一般:4,500円／ペア:8,400円／U25:3,500円／高校生以下:1,000円
当日…一般:5,000円

問合せ 劇団山の手事情社 03-6410-9056

略語表
アルト(A)／ベース(B)／バリトン(Br)／バス(Bs)／バスバリトン(Bs-Br)／コントラバス(Cb)／チェンバロ(Cemb)／合唱(Chor)／クラリネット(Cl)／指揮者(Cond)／ユーフォニアム(Euph)／ファゴット(Fg)／フルート(Fl)／ハープ(Hp)／ホルン(Hr)／マンドリン(Mand)／メソソプラノ(Ms)／オーボエ(Ob)／パイプオルガン(Org)／パーカッション(Per)／ピアノ(Pf)／ソプラノ(S)／サクソフォーン(Sax)／テノール(T)／トロンボーン(Tb)／ティンパニ(Timp)／トランペット(Tp)／チューバ(Tub)／ヴィオラ(Va)／チェロ(Vc)／ヴァイオリン(Vn)

24日(水) 11:00開演

芸劇ブランチコンサート ~清水和音の名曲ラウンジ~
第15回「勇壮なるホルンの響き」

出演 アンサンブル・サンセルテ[高橋臣直(Hr)／松田理奈(Vn)／清水和音(Pf)]

曲目 J.S.バッハ／G線上のアリア
サン＝サーンス／白鳥
ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ
ラフマニノフ／ヴォカリーズ
モンティ／チャールダーシュ
ブラームス／ホルン三重奏曲

料金 【全席指定】2,200円

問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

25日(木) 19:30開演

ナイトタイム・パイプオルガンコンサート Vol.24

出演 シモーネ・ヴェッパー(Org)

料金 【全席指定】1,000円

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

26日(金) 18:30開演

区民でつくる演奏会「いっぽ・イッポ・み・ら・い・へ14」
響きあう歌声でつなぐ世界~日瑞交流コンサート~

出演 坂本和彦、ロマン・マイヨール(Cond)／砂田愛梨(S)／鳥木弥生(A)／所谷直生(T)／泉良平(Br)／G.Dream21レディースオーケストラ／豊島区民合唱、アンサンブル・ポスト・スクリプトム、ジュニア・アーツ・アカデミー、慶應義塾大学・日本女子大学混声合唱団コール・メロディオン(Chor)

曲目 ヴェルディ「ナブッコ」より「vivaナブッコ」、「アイダ」より「デュエット・フィナーレ」
マスカーニ／「カヴァレリア・ルスティカーナ」より「間奏曲」「祈りの合唱」
モーツァルト／レクイエム ベッリーニ／「清教徒」より「A Festa」ほか

料金 S:3,500円／A:3,000円／B:1,500円(友の会会員は各500円引き)

問合せ としまチケットセンター 03-5391-0516

としま未来文化財団ブランセクション 03-3590-7118

27日(土) 15:00開演・19:00開演

ブチミレディ オーケストラコンサート

出演 大寄慶子(Cond)／ブチミレディ(悠木碧／竹達彩奈)／東京ニューシティ管弦楽団

曲目 360°星のオーケストラ
SNOW//SLASH
Ma Cherie ほか

料金 【全席指定】前売:8,500円／当日:9,000円

問合せ レキップトロワ 03-3470-0330

28日(日) 14:30開演

コバケン・ワールド Vol.20
(日本フィル第22回サンデーコンサート ロームクラシックススペシャル)

出演 小林研一郎(Cond)／辻本玲(Vc)／日本フィルハーモニー交響楽団

曲目 ウェーバー／歌劇『オベロン』序曲
サン＝サーンス／チェロ協奏曲第1番
交響曲第3番《オルガン付》

料金 S:6,800円／A:5,300円／B:4,200円／Ks(25才以下):1,500円／Gs(65才以上):4,500円

問合せ 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

31日(水) 19:00開演

東京芸術劇場コンサートオペラvol.6
藤倉大／歌劇『ソラリス』全幕
日本初演・演奏会形式 日本語字幕原語(英語)上演

出演 ハリー・三宅理恵(S)／クリス・ケルヴィン・サイモン・ペイリー(Br)／スナウト・トム・ランドル(T)／ギバリアン:森雅史(Bs)／ケルヴィン(オフステージ):ロリー・マズグレイヴ(Br)／佐藤紀雄(Cond)／アンサンブル・ノマド／永見竜生[Nagie](エレクトロニクス)

料金 S:6,000円／A:5,000円／B:4,000円／C:3,000円／D:1,500円／高校生以下:1,000円*

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

25日(木)~28日(日)

東京芸術祭2018直轄プログラム
「珈琲時光」

原作 侯孝賢「珈琲時光」 演出 王嘉明・鳴海康平

出演 (台北)Fa／圈圈

作・出演 ステレオプティック

(三重)佐直由佳子／小菅紘史／木母千尋／菊原真結／三浦真樹

(静岡)鈴木真理子(SPAC)

(金沢)西本浩明(演芸列車「東西本線」)

料金 【全席自由】無料・要予約(チケット整理番号順入場)※未就学児入場不可

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

27日(土)~29日(月)

東京芸術祭2018直轄プログラム
「ダーク・サーカス」

原作 ベフ

作・出演 ステレオプティック

料金 【全席自由】前売…一般:3,500円／U29:2,000円
当日…一般:4,000円／U29:2,500円
※推奨年齢7歳以上

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

12 DEC

12月

1
土

2
日

3
月

4
火

5
水

6
木

7
金

8
土

9
日

10
月

11
火

12
水

13
木

14
金

15
土

16
日

17
月

18
火

19
水

20
木

21
金

22
土

23
日

24
月

25
火

26
水

27
木

28
金

29
土

30
日

31
月

東京芸術劇場
ボックスオフィス

0570-010-296

〔休館日を除く
10:00～19:00〕

東京芸術劇場
ホームページ

www.geigeki.jp

休館日・10日(月)・28日(金)～31日(月)

Concert Hall

1日(土) 15:00開演

BOX

エル・システマ・フェスティバル2018
ガラコンサート

【第1部】
出演 エンリクス・モンテス・オリバー (Cond) / 相馬子どもオーケストラ / 大橋子どもオーケストラ / 駒ヶ根子どもオーケストラ
曲目 モーツァルト / セレナード第13番「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」K.525
ヴィヴァルディ / 「四季」から春と冬

【第2部】
出演 東京ホワイハンドコーラス〔指導、指揮：コロネリか / 井崎哲也、土野研二〕 / 栗津礼子 (Pf) / ララ・ソモス (ヴォーカル・アンサンブル)
曲目 出田敬三 (上田幸法作詞) / ふるさとの空
ロジャース (飯田寛夫訳詞) / エーデルワイス
イバネマの娘、ベネズエラ ほか
料金 【全席指定】2,000円 / 高校生以下：1,000円*
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

2日(日) 14:30開演

東京フロイデ合唱団 第九演奏会

出演 小松長生 (Cond) / 小林沙羅 (S) / 林美智子 (Ms) / 福井敬 (T) / 宮本益光 (Br) / 東京フロイデ合唱団 / 日本フィルハーモニー交響楽団
曲目 ロッシニ / 《ウィリアム・テル》序曲
ベートーヴェン / 交響曲第9番《合唱》
料金 S：5,000円 / A：4,000円 / B：3,000円 / C：2,000円 / D：1,000円
問合せ 東京フロイデ合唱団 03-5940-0731

5日(水) 18:20開演

BOX

第57回立教大学メサイア演奏会

出演 増田宏昭 (Cond) / 佐竹由美 (S) / 山下牧子 (A) / 小貫岩夫 (T) / 久保和範 (Bs) / 立教大学グリークラブ、立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊、立教大学交響楽団、一般参加合唱者 (Chor)
曲目 ヘンデル / メサイア
料金 S：2,500円 / A：2,000円 / B：1,000円 / 学生：500円 / Aベア：3,000円 / Bベア：1,500円
問合せ 立教大学池袋キャンパスチャペル会館 2階ロビー 03-3985-2683

9日(日) 14:00開演

神奈川大学管弦楽団 第72回定期演奏会

出演 松岡究 (Cond) / 神奈川大学管弦楽団
曲目 ドヴォルザーク / 交響曲第8番、序曲「謝肉祭」
サン＝サーンス / 「アルジェリア序曲」
料金 【全席指定】前売：500円 / 当日：800円
問合せ 神奈川大学管弦楽団部室直通 045-481-7842

Playhouse

1日(土)～4日(火)

BOX

芸劇dance 勅使川原三郎
「月に憑かれたピエロ」〔抒情組曲〕

演出・振付・照明・美術・衣裳 勅使川原三郎
出演 勅使川原三郎・佐東利穂子 (ダンス) / マリアヌス・ブスール (歌) / ハイメ・ウォルフソン (Cond) / 多久潤一郎 (Fl) / 岩瀬龍太 (Cl) / 田口真理子 (Pf) / 松岡麻衣子・甲斐史子 (Vn) / 般若佳子 (Va) / 山澤恵 (Vc)
料金 【全席指定】S：5,000円 / A：4,000円 / 65歳以上 (S)：3,000円 / 25歳以下 (A)：2,500円* / 高校生以下：1,000円*
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

12月	1 土	2 日	3 月	4 火
16:00		●		
18:00	●			
19:30				●

8日(土)・9日(日)

BOX

NBAバレー団「くるみ割り人形」

芸術監督・演出 久保統一
出演 NBAバレー団
(高橋真之 / 宮内浩之 / 三船元維 / 安西健晃 / 竹田仁美 / 佐藤圭 / 竹内碧 / 大島淑江)
料金 【全席指定】S：8,000円 / A：6,000円 / 学生：3,000円 / 親子ペア：14,000円 / Z：1,500円
問合せ NBAバレー団事務局 04-2937-4931

12月	8 土	9 日
15:00		●
18:00	●	

Theatre East

～2日(日)

3D能 エクストリーム

公演情報はP.12参照

12月	1 土	2 日
12:30		●
14:00	●	
16:00		●
18:30	●	

4日(火)～9日(日)

BOX

ゼブラ

作・演出 田村孝裕
出演 富田直美 / 和田ひろこ / 恩田隆一 / 伊藤俊輔 / 山口森広 / 弘中麻紀 / 星野園美
瓜生和成 / 吉田芽吹 / 古屋治男 / 新垣里沙 / 矢部太郎
料金 【全席指定】前売：2,000円 / 当日：2,500円
問合せ ONEOR8 080-6577-1399

12月	4 火	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日
15:00			●	●	●	●
19:00	●	●	●	●		

Theatre West

～2日(日)

「TAKEDA」

公演情報はP.12参照

12月	1 土	2 日
13:00	●	●
17:00	●	●

5日(水)～9日(日)

RISU PRODUCE vol.21
20周年記念公演 第一弾「イキザマ3」

作・演出 松本匠
出演 岩田華怜 / 吉川柳太 / 鈴木健斗 / 横関健悟 / 朝枝知弘 / 永吉悠人
谷口勇樹 / 中尾太一 / 松本匠 ほか
料金 【全席指定】一般：5,000円 / U22：3,500円 (劇団.Corichのみ取扱い)
※初日・平日マチネ割 500円引
問合せ RISU PRODUCE 042-364-4881

12月	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日
14:00			●	●	●
19:00	●	●	●	●	

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケット
取扱いのある公演 (取扱いのない券種もございます) ……
・プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。
最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。
・原則不就学院のご入場はお断りしています。
・＊は劇場ボックスオフィスで前売のみ取扱い。
年齢割引チケットは枚数限定・要証明書。

16日(日) 15:00開演

BOX

東京芸術劇場 海外オーケストラシリーズ
パリ管弦楽団

出演 ダニエル・ハーディング (Cond) / イザベル・ファウスト (Vn) / パリ管弦楽団
曲目 ベルク / ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出」
マーラー / 交響曲第1番「巨人」
料金 S：26,000円 / A：20,000円 / B：16,000円 / C：11,000円 / D：7,000円 / SS：31,000円 / 高校生以下1,000円*
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

18日(火) 14:00開演

BOX

東京都交響楽団第869回定期演奏会

出演 アラン・ギルバート (Cond) / ターニャ・デツラフ (Vc) / 鈴木 雅 (Va) / 東京都交響楽団
曲目 R.シュトラウス / 交響詩《ドン・キホーテ》
ビゼー / 「カルメン」組曲より (アラン・ギルバート・セレクション)
リムスキー＝コルサコフ / スペイン奇想曲
料金 S：8,000円 / A：7,000円 / B：6,000円 / C：5,000円 / Ex：4,000円
問合せ 都響ガイド 0570-056-057

19日(水) 11:00開演

BOX

芸劇ブランチコンサート
～清水和音の名曲ラウンジ～
第16回「やっぱりチェロが素敵」

出演 アンサンブル・サンセリテ〔富岡康太郎 (Vc) / 大江馨 (Vn) / 清水和音 (Pf)〕
曲目 サン＝サーンス / 白鳥
フォーレ / 夢のあとに
ベートーヴェン / チェロ・ソナタ第3番
メンデルスゾーン / ピアノ三重奏曲第1番
料金 【全席指定】2,200円
問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

19日(水) 19:00開演

BOX

交声曲「海道東征」

出演 北原幸男 (Cond) / 澤畑恵美、盛田麻央 (S) / 田村由貴絵 (A) / 与儀巧 (T) / 原田圭 (Br) / 武蔵野音楽大学合唱団 / 武蔵野音楽大学附属音楽教室生徒 / 東京交響楽団
曲目 モーツァルト / 交響曲第41番「ジュピター」
信時潔 / 交声曲「海道東征」
料金 S：8,000円 / A：7,000円 / B：4,000円 / C：一般発売なし
問合せ 日本アーティスト 03-5305-4545

15日(土)・16日(日)

BOX

小松原庸子スペイン舞踊団創立50周年記念公演
フラメンコの妖しい魅力

企画・構成・演出・振付 小松原庸子 振付 マリベル・ガジャルド / クリージョ
作曲・編曲 タビ・ベニーヤ・ドランテス / 高橋紀博
料金 【全席指定】S：13,000円 / A：11,000円 / B：8,000円
問合せ ソル・デ・エスパーニャ 03-3314-2568

12月	15 土	16 日
15:00		●
18:30	●	

17日(月) 19:00開演

BOX

柳家三三 独演会

料金 【全席指定】3,600円
問合せ 夢空間 03-5785-0380

18日(火) 19:00開演

BOX

神田松之丞 独演会

料金 【全席指定】3,300円
問合せ 夢空間 03-5785-0380

14日(金)～26日(水)

BOX

移動レストラン「ア・ラ・カルト」
30th anniversary

出演 高泉淳子 / 山本光洋 / 中山祐一郎 / 采澤靖起 / 中西俊博 (Vn) / 竹中俊二 (Gt) / バトリック・ヌジェ (Acc) / プレント・ナッシー (B) / 日替わりゲスト (50音順)：尾上菊之丞 / 篠井英介 / 春風亭昇太 / 高橋源一郎 / 館形比呂一 / レ・ロマネスクTOBI / ROLLY
料金 【全席指定】7,500円
問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

12月	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
14:00	●								●	●			●
17:30													
18:30	●	●		●	●	●	●	●					

14日(金)～1月14日(月・祝)

BOX

MUSICAL「Thrill me スリル・ミー」

原作・音楽・脚本 STEPHEN DOLGINOFF 脚・演出 松田直行
演出 栗山民也
出演 成河×福士誠治 / 松下洸平×柿澤勇人 / 朴勝吾 (Pf)
料金 【全席指定】8,500円 ※中学生以下入場不可
問合せ ホリプロチケットセンター 03-3490-4949

12月	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	30 日	31 日	初 月	2 水	3 木	4 金	5 土	6 日	7 月	8 火	9 水	10 木	11 金	12 土	13 日	14 月
12:30			●						●	●	●																					
14:00	●	●	●	●	休	●	○							休	●	○		休		休		休	●					休	●			

●＝成河×福士誠治
○＝松下洸平×柿澤勇人

24日(月・休) 14:00開演

BOX

都響スペシャル「第九」

出演 小泉和裕 (Cond) / 安井陽子 (S) / 富岡明子 (Ms) / 福井敬 (T) / 甲斐栄次郎 (Br) / 二期会合唱団 / 東京都交響楽団
曲目 ベートーヴェン / 交響曲第9番《合唱付》
料金 S：9,000円 / A：8,000円 / B：7,000円 / C：6,000円 / Ex：4,000円
問合せ 都響ガイド 0570-056-057

25日(火) 19:00開演

BOX

SHINRYO Presents 「第九」特別演奏会

出演 マッシモ・ザネッティ、三澤洋史 (Cond) / アガ・ミコライ (S) / 清水華澄 (Ms) / トム・ランドル (T) / 妻屋秀和 (Bs) / 新国立劇場合唱団 / 読売日本交響楽団
曲目 J.S.バッハ / モテット第1番「新しい歌を主にむかって歌え」
ベートーヴェン / 交響曲第9番《合唱付》
料金 S：9,500円 / A：7,500円 / B：6,000円 / C：4,500円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

26日(水) 19:00開演

BOX

日本フィル第九特別演奏会2018
(サンデーコンサート・スペシャル)

出演 小林研一郎 (Cond) / 市原愛 (S) / 山下牧子 (A) / 錦織健 (T) / 青山貴 (Br) / 日本フィルハーモニー協会合唱団 / 日本フィルハーモニー交響楽団
曲目 ベートーヴェン / 交響曲第九番《合唱》 ほか
料金 S：9,000円 / A：7,500円 / B：7,000円 / C：6,000円 / Ys (25才以下)：3,500円 / Gs (65才以上)：6,000円
問合せ 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

27日(木) 19:00開演

BOX

日本フィル第九特別演奏会2018
(サンデーコンサート・スペシャル)

出演 小林研一郎 (Cond) / 市原愛 (S) / 山下牧子 (A) / 錦織健 (T) / 青山貴 (Br) / 日本フィルハーモニー協会合唱団 / 日本フィルハーモニー交響楽団
曲目 ベートーヴェン / 交響曲第九番《合唱》 ほか
料金 S：9,000円 / A：7,500円 / B：7,000円 / C：6,000円 / Ys (25才以下)：3,500円 / Gs (65才以上)：6,000円
問合せ 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

19日(水) 19:00開演

BOX

林家たい平 独演会

料金 【全席指定】3,600円 問合せ 夢空間 03-5785-0380

23日(日・祝) 9:50開演

東京都特別支援学校 第27回総合文化祭
舞台芸術・演劇祭
料金 【全席自由】入場無料
問合せ 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課 03-5321-1111 (内線53-726)

Gallery 1 (5F)			
10	6日(土)～7日(日) Gallery 1・2同時開催 華道家元池坊東京むらさき会 支部創立30周年青年部27周年記念花展 ■問合せ 窪田 047-360-1112 080-5545-0176	9日(火)～14日(日) 無 料 楽書会書展 第17回東京展 ■問合せ 加藤 080-5672-1168	19日(金)～21日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 第32回紅霧書展・ 第35回書藝選抜展 合同開催 ■問合せ 東京書道教育会 03-5770-6811
	23日(火)～27日(土) 無 料 第21回 公募インテリアの書展 ■問合せ 墨のサロン 049-284-4311	28日(日)～11月1日(木) 無 料 十人十色百暖百園 栄美子戸田ロープと ニューゼファーズキルト展 ■問合せ ニューゼファーズ事務局 三沢 042-491-0797	
11	2日(金)～6日(火) 無 料 豊島区総合美術館 (日本画・洋画・彫刻・工芸・書) ■問合せ としま未来文化財団 みらい文化課プランセクション 03-3590-7118	10日(土)～11日(日) 無 料 つなぐ伝統展 ■問合せ あゆむ家 03-5784-2662	17日(土)～18日(日) 無 料 公益社団法人松風花道会 いけばな展 ■問合せ 松風花道会 03-5940-2918
	21日(水)～25日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 第31回 東京都高等学校文化連盟書道展 ■問合せ 都立江北高等学校定時制課程 矢口 03-3880-3413	30日(金)～12月2日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 Studio KILN ART作品展2018 ■問合せ 日本ヴォーグ社 03-3383-0665	
12	6日(木)～9日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 第37回肢体不自由児・者の美術展 ■問合せ 吉原 03-5995-4511	15日(土)～16日(日) 無 料 第41回 いけばな公募展2018 ■問合せ いけばな公募展事務局 加藤 090-4057-6071	17日(月)～19日(水) 無 料 第4回現代きりえ作家展 ■問合せ 持永 090-8082-1672
	21日(金)～23日(日・祝) 無 料 日本書学研究会一先会東京支局展 ■問合せ 环 090-5541-1556		
Gallery 2 (5F)			
10	6日(土)～7日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 華道家元池坊東京むらさき会 支部創立30周年青年部27周年記念花展 ■問合せ 窪田 047-360-1112 080-5545-0176	10日(水)～14日(日) 無 料 第6回心和書道会小品展 ■問合せ 庭野 090-3505-2082	19日(金)～21日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 第32回紅霧書展・ 第35回書藝選抜展 合同開催 ■問合せ 東京書道教育会 03-5770-6811
	22日(月)～27日(土) 無 料 現代水墨画 今岡紫雲英グループ墨展 ■問合せ 佐々木 042-465-7867 090-9313-7136	28日(日)～11月1日(木) 無 料 第42回 布穀会展 ■問合せ 河村 090-7900-2729	
11	4日(日)～6日(火) 無 料 豊島区総合美術館(いけば花) ■問合せ としま未来文化財団 みらい文化課プランセクション 03-3590-7118	7日(水)～11日(日) 無 料 第9回 ART CONFUSE展 ■問合せ 日本美術会 03-5842-5665	16日(金)～18日(日) 無 料 第8回 和様の書展 ■問合せ うどよし 0800-812-6303
	21日(水)～25日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 第31回 東京都高等学校文化連盟書道展 ■問合せ 都立江北高等学校定時制課程 矢口 03-3880-3413	30日(金)～12月2日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 Studio KILN ART作品展2018 ■問合せ 日本ヴォーグ社 03-3383-0665	
12	6日(木)～9日(日) 無 料 Gallery 1・2同時開催 第37回肢体不自由児・者の美術展 ■問合せ 吉原 03-5995-4511	17日(月)～21日(金) 無 料 日中交流書法篆刻交流展 ■問合せ 日中交流振興協会 池 03-5214-3977	23日(日・祝)～24日(月・休) 無 料 巣鴨学園 美術書道作品展 ■問合せ 巣鴨学園 03-3918-5311
Atelier East (B1F)			
10	2日(火)～8日(月・祝) 無 料 第3回 水彩の庭展 ■問合せ 大友 042-403-6351	9日(火)～14日(日) 無 料 能面倉林会 能狂言面展 ■問合せ 倉林 080-5678-1736	19日(金)～21日(日) 無 料 江古田陶房陶芸教室 生徒作品展 ■問合せ 江古田陶房 03-3950-1146
	23日(火)～11月11日(日) 無 料 東京芸術祭2018 F/Tステーション ■問合せ フェスティバル/トーキョー 実行委員会 03-5961-5202		
11	19日(月)～25日(日) 無 料 藝文東京ビエンナーレ ■問合せ 野尻 03-3908-6533	27日(火)～12月2日(日) 無 料 第二十九回泰永書展 一チェコ共和国国際交流展一 ■問合せ 泰永会事務局 03-3332-3701	
12	3日(月)～9日(日) 無 料 ボタニカルアート グループ展 Mille Fleure ■問合せ 山本 03-5998-7446	11日(火)～16日(日) 無 料 第3回 彩心(さいころ)展 ■問合せ 原 090-3688-2612	17日(月)～23日(日・祝) 無 料 第7回武蔵大学美術部OBOG展 ■問合せ 高橋 090-6496-8925
Atelier West (B1F)			
10	2日(火)～8日(月・祝) 無 料 フォトクラブ・セルコバ 第4回作品展 ■問合せ 川那部 042-637-8035	10日(水)～14日(日) 無 料 第26回希風会書作展 ■問合せ 庭野 090-3505-2082	19日(金)～21日(日) 無 料 第20回 愚山会書展 ■問合せ 東京書道教育会 03-5770-6811
11	6日(火)～11日(日) 無 料 APAFーアジア舞台芸術人材育成部門2018 APAFアートキャンプ ■問合せ APAF事務局 03-6820-2413 ※一部のみ公開・事前申込制	21日(水)～25日(日) 無 料 二人展 多々良征四郎(旅のスケッチ)・多々良弘子(日本画) ■問合せ 多々良 03-3923-5591	28日(水)～12月2日(日) 無 料 第5回 酒井康堂・子遠一門会 忘形印社展 ■問合せ 周 080-6670-0567
12	4日(火)～9日(日) 無 料 キャノンフォトクラブ・ エアライナース写真展 「飛行機のある風景」 ■問合せ 前田 090-2626-3914	13日(木)～16日(日) 有 料 紛争地域から生まれた 演劇シリーズ10 ■問合せ 有料 事前申込 国際演劇協会日本センター 03-3478-2189	17日(月)～23日(日・祝) 無 料 第5回 グループ「翠」写真展 ■問合せ 斎藤 03-3959-7821

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)

東京演劇道場 オーディション／ワークショップ

12月13日(木)～19日(水) 都内

DōJō



「東京演劇道場」開設！ 野田秀樹芸術監督10年目の新たな取り組み！

野田芸術監督は就任以来、劇場における人材育成事業に精力的に関わっています。英国留学時代に参加した数々のワークショップから、創作につながる刺激を受けてきた経験とネットワークを生かし、キャサリン・ハンター、リロ・パウワーといった第一線で活躍する舞台人を招いて、ワークショップ等を実施してきました。演劇専攻の学生や俳優養成所で学ぶ多くの人たちが、卒業後に演劇に関係した仕事に就けていないことや、単発のワークショップでは成果が継続的に蓄積されることが簡単ではない現状などを踏まえ、このたび新たに特に若い世代の俳優としてのポテンシャルにじっくり向き合える場を開くことと致しました。

その名も「東京演劇道場」。野田および国内外の優れたアーティストが指導にあたり、真の芝居人として生きていくことを目指す人に、プロフェッショナルの技や志を伝えていきます。ふるってご応募ください。

【お問合せ】東京芸術劇場 03-5391-2111 (代) 応募方法など詳細はHPへ

集まれ! 池袋みんなの大道芸 無 料

9月8日(土)～11月4日(日) 劇場前広場



【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116 詳細はHPへ

ゴールデンウィークに賑わいをみせた「集まれ! 池袋みんなの大道芸」を引き続き9月より開催。
アクロバットパフォーマンス、バントマイム、マジック、滅多に見られない海外からのスペシャルゲストも出演! ボールやディアボロなどの技にチャレンジできる「チャレンジ広場」も同時開催します。

芸劇+まちがく 北川フラム × 山下洋輔

10月5日(金) 18:30開始 シンフォニースペース



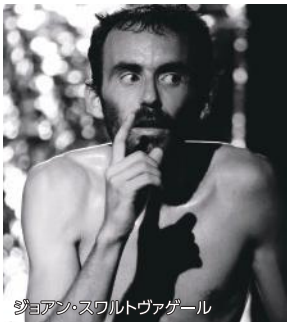
料金: 一般 3,000円 学生 2,000円 (軽食付)
【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116 詳細はHPへ

アートが持つポテンシャルを活用した街づくりのパイオニアである北川フラム氏をモデレーターに迎え、アート、文学、演劇、音楽、建築等を切り口に、各回テーマに即したゲストを招き行っているフォーラム「芸劇+まちがく」。10月5日の第5回は、「ジャズ(音楽) による都市への滲み出し」と題し、山下洋輔氏をゲストに演奏とトークを実施。

ストリートアーティスト・アカデミー

関連レクチャー&特別ワークショップ

11月20日(火)～24日(土) リハーサルルームL ほか



レクチャー
日程: 2018年11月20日(火)
会場: アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ
ワークショップ
日程: 2018年11月21日(水)～11月24日(土)
会場: リハーサルルームL
【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116 詳細はHPへ

フランスより、コンテンポラリー・サーカスの第一人者ジョアン・スワルトヴァーゲル氏を招聘し、ストリートパフォーマーのためのワークショップを開催。また11月20日には、ジョアン氏とコンテンポラリー・サーカス研究者であるアガタ・デュモン氏を迎え、ヨーロッパにおけるストリートパフォーマンスおよび教育プログラムの現状等について語るレクチャーを実施します。



『コモン・グラウンド』
作: ヤエル・ロネン&アンサンブル 訳: 庭山由佳 演出: 小山ゆうな(雷ストレンジャーズ)
「これが戦争だ」
作: ハナ・モスコビッチ 訳: 吉原豊司 演出: 生田みゆき(文学座)
料金: 【全席自由】1,500円(各回とも)
【お問合せ】国際演劇協会日本センター (ITI) 03-3478-2189 詳細はHPへ

同時代の優れた海外戯曲をリーディング公演とトークで紹介するシリーズ。今回は、イスラエル出身のヤエル・ロネンがベルリンで旧ユーゴスラビア出身の俳優たちと手がけた『コモン・グラウンド』と、アフガニスタンに従軍したカナダ兵士が見えざるメディアからインタビューを受ける、という設定で戦場の人間心理を浮き彫りにする『これが戦争だ』の2本を、日本語初訳・初演でご紹介します。

踊りは、無数の無名の人の 無償の行いから生まれたと思うんです。

70年代から独自のスタンスで活動続け、近年は、敏捷な運動能力と孤高のたたずまいで、

映像の世界からもオファーが相次いでいるダンサー、田中泯。今年のGWに開催されたタクト・フェスティバルでは、

芸劇前の広場にソロダンス「場踊り」で参加、道行く人の喝采を浴びた。

11月に久々の劇場作品となる『一オドリに惚れちゃって!—「形の冒険」』を控える田中泯。

奇しくも、野田秀樹と同じ日に同じ空を見上げていたことがわかってー。

1964年の同じ青空、それぞれの風景

正式に会うのはこの日が初めて。とはいえ、田中さんはNODA・MAPの公演に度々足を運び、野田もまた、田中さんの活動には昔から敬意を抱いていた。NODA・MAP常連の宮沢りえさんが、田中さん演出、出演のダンス&トークパフォーマンス『影向』(2015年)でダンサーデビューした縁もある。そして身体表現を選んだふたりには、意外な共通の体験があった。

野田 残念ながら僕は観られなかったのですが、ゴールデンウィークに芸劇前の広場でなされた『場踊り』(TACT/FESTIVAL2018)が好評だったと聞いています。池袋の雰囲気はいかがでしたか？

田中 僕が最初に踊りを始めたのは、バレエとアメリカのモダンダンスだったんです。昔は内弟子という制度があり、先生の家の掃除や洗濯をしながら、いわゆる授業料を免除してもらって教わっていた。とにかく早く覚えたくて、スタジオに寝泊まりして、子供のレッスンにも参加して、時々師匠の時間が空いてる時に直に教わりましてね。その場所が池袋に繋がんですけど(笑)、池袋駅から東武東上線で行く常盤台だったんです。だから懐かしかったですよ。

野田 お師匠さんはどなたですか？

田中 平岡斗南夫といいまして、日本の舞踊の世界では初期の男性の舞手です。本当はオペラ歌手になるつもりで鹿児島から出て来たんですけど、帝劇でバレエを習わされて、そのうちモダンバレエを始めた人です。

野田 そもそも、泯さんが踊りを始められた動機は？

田中 バスケットをずっとやっていて、その世界で上のほうを目指していたんです。でも大学に入って、他の選手との間に能力の差があると知りまして。と同時に、スポーツ界のピラミッドの様子とか、リタイアしたあとにどういう生き方があるかといった情報がバーッと入って来たんです。それで、上に進めたとしても、まるでトロロコに乗せられたみたいじゃないかと感じてしまって。だったら自分にしかできないことをやろう、「芸術家になろう!」と考えたんです。それを決意した日のことはよく覚えています。東京オリンピックの開幕式で、空に飛行機が五輪をつかったのを見てはっきり、「俺はもう永久にスポー

ツやらないぞ」という気持ちが湧き上がったんですね。

野田 64年の開会式の時ですね。僕も見ています。自衛隊の飛行機が五色の煙を出しながらアクロバット飛行でオリンピックのマークをつくった。

田中 そうです。あれ、相当な数の人が空を見ていたでしょうね。

野田 おいくつでしたか？

田中 19です。ちょうど大学に入った年でした。

野田 僕は8歳でしたけど、あの空の青さを鮮明に覚えてます。当時、参宮橋に住んでいたんですが、開会式をテレビで見えていたら空に五輪が描かれる様子を放送している。外なら実際に見えるだろうと家を出たら、(開会式をやっている)国立競技場のすぐ近くだから、完璧に自分の真上で「おー」と思って。今、坂口安吾の小説をもとにした作品(『農作桜の森の満開の下』)の稽古をしているんですけど、僕が安吾を好きな理由のひとつに、彼の書く青空が大好きだということがあります。戦後の虚無のどこまでも青い青空というんでしょうか。そのイメージが重なります。僕にとって、青空という浮かぶのはあの青空なんです。

田中 踊りはもう習い始めていたんですけど、僕も高いところでオリンピックの輪が描かれていくのを見て、なぜか腹が決まったんです。

ダンスと演劇、その距離感と問題意識

前回の東京オリンピックの開会式の日、同じ空を眺め、踊りに人生を賭けることを決めた青年と、後に強く影響を受ける作家の世界観に通じる入口を見つけた少年。ジャンルは異なるが、共にパフォーマーの道を選んだふたりは、ダンスと演劇の距離感について、今、近い問題意識を抱いている。

田中 11月に芸劇でかなり久しぶりにソロの劇場公演をするんですが、劇場を離れていた理由は、踊りと演技の違いを自分なりに考えていたからです。俳優さんと同じように体を使うし、かなり近いと思われがちなんだけど、演技と踊りは発生の時期も背景も全く違うんじゃないかと僕は思っています。その距離を考えていました。誰が始めた、いつ始まったということではなく、踊りというのは無数の無名の群れから発生して、そのままずっと続いて



いるものだとは僕が思う。人が文字を使い始める以前から踊りはあって、たまにそれを「踊り」と呼ぶようになり、のちにそれが文字になっていったわけです。……学者は誰もそう言ってくれないんですが(笑)。

野田 僕もよく踊りと演技について考えるんですが、最近、踊りながら喋るダンサーさんが多くなりましたよね。踊っていて声が出るのはわかんんです、「ハッ」とか「ウッ」という音としての肉声が自然に出るのは。でもそれが意味を持った言葉になった時に僕は違和感を感じる。なぜ踊っている人が喋るのかを問いたくなるんです。

田中 野田さん！僕はその話を何よりもしたい。ただこれ、相当真剣に話さないといけないテーマですよ。中途半端に話すもったいない話です。

野田 あ、そうでしたか(笑)。

田中 たとえばジャンプという動作を、学者たちは“地盤を鎮めるための足踏み”と言ったりしますが、僕は違うと思う。もっともっと素朴な、体の奥のほうから自然に生まれて来た行為だと思うんですね。人間の脳は何十万年かけて発達してきた、それより先に踊りの衝動があったんじゃないか。ダンスは本当にすごいことをやってきたんです。それも無数の無名の人の無償の行いによって。そこが、ひょっとしたら演劇との大きな違いかもしれないと思っています。でもある時期からダンスは宗教に奉仕し、また演劇に奉仕するようになるんですね。アメリカのミュージカルは特にその傾向が強い。ダンスは演劇に奉仕しながら、技術を開発していくんです。最近の喋るダンスというのは、それと無関係ではないんじゃないですか。

野田 泯さんがおっしゃることと一致しているかわかりませんが、僕が違

和感を感じるのは、ダンサーがわざわざインカム(マイク)を着けて喋ることなんです。ダンスは本来、肉体のものじゃないですか。声を出すのは構わないし、何か喋ってもいい。でもなぜ言葉を肉声ではなく、当たり前のように機械を通して外に出すのが不思議です。演劇とダンスの違いは、そこにもあると思うんですよ。僕ら(俳優)は、肉声をせりふにして、意味のあるものとして喋る。その時、言語は伝達しなくちゃいけないものとして意識されるから、肉体をどうコントロールして、その一部の声をどう使ってお客さんに伝えるかを考えるわけです。それなのに(言葉よりも)肉体を駆使することを選んでいるダンサーが、何か考えた形跡もなくインカムに頼っているのは違和感があります。「ここだけ機械に頼っちゃうんだ?」と。この10年ぐらいですかね、気になるようになってきたのは。

田中 人間が言語を獲得する前、本当に意味を伝え得る音声を持たなかった時代には、叫び声ひとつでさまざまなニュアンスを伝えなければいけなかった。例えば危機に瀕している状況とか、相手との距離の問題といったことです。これは僕から言わせれば、非常にダンス的なんですよ。相手との距離で声の出し方は絶対に違う、その身体感覚から出てくる声は、言ってみれば肉体の資源です。僕はそういうことを想像するだけで豊かな気持ちになれます。野田さんが言う、ダンサーが安易に言葉を使う良くない流れはね、ピナ・バウシュが広めてしまったんじゃないか!?

野田 ピナ・バウシュが原因ですか(笑)。

田中 だって彼女、「ダンスシアター(タンツテアター)」という言葉で、ダンスとシアター(演劇)を簡単につなげてしまったんですから。それが何の議論もされないまま世界に広まってしまった。僕は逆なんです。さっきも言ったように、ダンスとシアターの違いをずっと考えている。僕も時々、踊りながら言葉を出すことはあるんですが、進行しているものとは全く別のレベルの次の言葉を使いたい。だから「あ、白鳥が北へ飛んでくな」とか言うんですよ。別に何の意味もないんです。ただ、白鳥が北へ飛んでいくということが、お客さんにはきちんと聞こえて、まるで僕とは関係ないようにして存在している。そこにおもしろさを感じます。

野田 僕が最初に喋るダンスを観たのは、確か、ウィリアム・フォーサイスの作品でした。

田中 あの人にも責任はありますね(笑)。結局、技術と技術をつなげたり、ここにあるものと別のところにあるものを組み合わせるとダンスになるというふうに、いつの間にかなっていましたね。よくよく考えると変でしょう。演劇には、技術以前の(感情や感覚の)高まりがあるわけですよ。そこからしか考えられないじゃないですか。踊りだって本当は、踊りをつくる人が常に「踊りって何だろう?」という問いを持ち続けていなかったら、踊り足り得ないはずなんです。「こうすりゃ踊りになる」というのは一番ずるい考え方だと僕は思います。

野田 演劇だっていくらでもありますよ、「こうすりゃ演劇になる」という考えでつくられたものが、自分の反省を含めて言いますが、やっぱり「これとこれを組み合わせればそれらしいものになる」とつくられたであろうものを観

ると「芝居を舐めるなよ」と思いますよね。

田中 いくら時間をかけて大ピースの作品をつくったと言われても「こういう表現をすれば、観る人はこう思ってくれるだろう」みたいな予定調和に向かったものなら、怠慢もいいところですよ。11月の新作は、珍しく最初にタイトルを付けようと思って『形の冒険』にしたんですけど、形は絶対に必要なものですが、動きが形に至った時に、その形を揺るものがあるだろう、それが僕であり踊りであり演劇なんじゃないかと思うんですね。伝統は形だとよく言われますけど、実は、その形を揺らすこと自体が伝統なんだろうと。そうして伝統は続いて来た。その意味ではダンスも全く同じで、もしかしたら大それたタイトルをつけてしまったのかもしれない困っているところです(笑)。

野田 良いタイトルだと思います。公演を楽しみにしていますし、ぜひその前に、僕らの『贋作 桜の森の満開の下』を観にいらしてください。

田中さんが「何よりも話したい」と言った肉体と声、ダンスと演劇の関係についてふたりがさらに語り合ったらどんな刺激的な話が広がるのか。想像するだけでも心が躍るその機会をひそかに待ちたい。

取材・文:徳永京子
写真:渡部孝弘

今回のアイタイヒト

田中 泯 MIN TANAKA

ダンサー。暗黒舞踏の創始者である土方巽に私淑した、前衛的、実験的舞踊家。1974年、独自の表現活動を始め、精神・物理の統合体として存在する身体に重点をおいた「ハイパーダンス」を展開。78年のパリでのソロデビュー以後、世界中の知識人や芸術家との数々のコラボレーションへと繋がり、そのアプローチは形式的な舞台芸術、ダンス、音楽のシーンの枠に収まらない。2002年、山田洋次監督の映画「たそがれ清兵衛」で初の映像出演により、その後も国内のみならず数々の映画、TVドラマへ出演し、2013年にはハリウッドデビューを果たす。田中の、「踊りの起源」への絶え間ない調査と堅固なこだわりは、日常に存在するあらゆる場に固有の踊りを即興で踊るというアプローチによって、「場踊り」という形で、より実践への根を深めている。「場踊り」は日本および世界各地で現在進行形で繰り上げられている。国内外問わず大舞台から野外までの幅広いダンス歴は現在までに3000回を超える。著書『僕はずっと裸だった』(工作舎)、『意身伝心』(松岡正剛との共著、春秋社)、写真集「光合成」MIN by KEIICHI TAHARA(スーパースタジオ)。

www.min-tanaka.com

作・演出:野田秀樹

NODA・MAP第22回公演

「贋作 桜の森の満開の下」

11月3日(土・祝)～25日(日)プレイハウス

9月28日(金)～10月3日(水)国立シャイヨー劇場(パリ)

大阪、北九州公演あり

www.nodamap.com/

関連ページP11

シネマ歌舞伎『野田版 桜の森の満開の下』

作・演出:野田秀樹

2019年4月5日(金)～ 東劇ほかにて全国公開

東京芸術劇場ボックスオフィスにてムビチケ販売!(11月3日～販売開始)

野田秀樹 HIDEKI NODA

劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。92年に「劇団 夢の遊眠社」を解散後、ロンドンへ留学。帰国後の93年に演劇企画製作会社「NODA・MAP」を設立。以来『キル』『赤鬼』『パンドラの種』『THE BEE』『ザ・キャラクター』『エッグ』『MIWA』『逆鱗』『足跡姫』『One Green Bottle』など、時代に抗を穿つ話題作を発表。モーツァルト歌劇『フィガロの結婚-庭師は見た!-』等、オペラの演出、海外の俳優やスタッフとの共同制作。2017年は9年ぶりとなる、『野田版 桜の森の満開の下』で歌舞伎の脚本、演出を手がけ、大きな反響を得る。演劇界の旗手として枠を超えた精力的な創作活動を行う。2015年よりブラジル、東北、東京、京都などで、国内外の多種多様な表現者達と新たな幻想的な表現を創出する文化サカス「東京キャラバン」を実施。2017年、十八代目中村勘三郎とのタッグが話題となった伝説的作品『表に出るいっ!』を、TTHE BEEの最強キャストとともに、新たな英国版『One Green Bottle』として創作。東京、韓国、ロンドン、ルーマニアで上演し、好評を博す。2018年9月～11月、NODA・MAP第22回公演「贋作 桜の森の満開の下」を東京、大阪、北九州、パリで上演。世界を駆け巡り、意欲的に活動を展開している。

野田秀樹芸術監督10年目の新たな取り組み

東京演劇道場 オーディション／ワークショップ

www.geigeki.jp/engekidojo

関連ページP16

芸劇dance

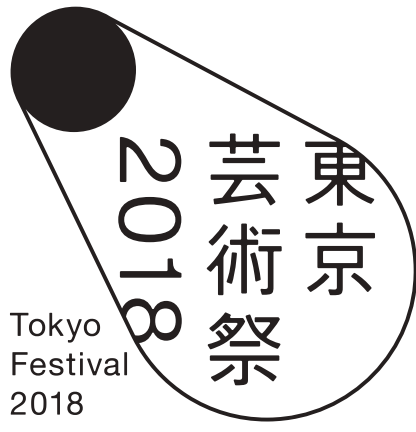
田中 泯

一オドリに惚れちゃって!―「形の冒険」

11月23日(金・祝)～25日(日)シアターイースト

関連ページP7、P12

MIN TANAKA X HIDEKI NODA



東京芸術祭2018—直轄プログラムが始動。新展開の年。

池袋のまちに“ひらく”直轄プログラム『野外劇 三文オペラ』 日常の空間で、想像もしていなかった演劇との出会いを

東京芸術祭は、今年も豊島区・池袋エリアを中心に展開。宮城聡総合ディレクターの掲げる3つの柱「ひらく」「きわめる」「つながる」を体現する「東京芸術祭直轄プログラム」が参加事業に新たに加わり、更なる盛り上がりを見せる。

その中でも、特に注目の『野外劇 三文オペラ』は10月18日～28日(10月23日は休演)毎夜19時より池袋西口公園で上演。本作はイタリアを代表する演出家ジョルジオ・パルベリオ・コルセッティが日本の俳優とクリエーションを行う新作だ。世界的な演出家によるハイクオリティな作品にも関わらず、チケット代はワンコイン500円と非常に安価。立ち見エリアなら通しさらに無料で観劇可能と、大胆に街にひらかれたプログラムだ。

約100年前に劇作家ブレヒトが生み出した『三文オペラ』は、ヴァイルの音楽と共に人々を魅了し続け、今もなお色あせない。歌声が響く稽古場で、コルセッティは「ブレヒトの提示した社会への批判的な視点は現代を生きる我々にも強烈に響く。この作品には同時代的な側面がある」と力強く語る。

出演者15名は全員、昨年12月の公募オーディションにてコルセッティ自身の目で選ばれた。「観客は想像もしていなかった強烈な演劇作品を観ることになるだろう。『野外劇 三文オペラ』の上演によって、日常のスペースがいつもと

全く違う空間になることは非常に驚くべきこと。俳優たちもその空間を生み出すために多くのエネルギーを注いでくれるはず」と、日本人の俳優と共にひらかれた空間で上演することに意欲をみせる。

3年目を迎えた東京芸術祭。直轄プログラムは注目の6作品 プログラムの柱は「ひらく」「きわめる」「つながる」

直轄プログラムは『野外劇 三文オペラ』のほか、3つの柱を体現する全6作品を上演する。フランスからは、演出家ダニエル・ジャンヌトーによる大ヒット作『ガラスの動物園』、ステレオプティックによるライブパフォーマンス『ダーク・サーカス』の2作品が来日。静岡の中高生が出演する『空は翼によって測られる』、オーディションによって選ばれた55歳以上の女性ダンサーが出演する『アダルト版ユメミルチカラ』は、どちらもカメルーン出身・パリ在住の振付家メルラン・ニヤカムによるコンテンポラリーダンス作品。三重拠点の第七劇場と台北の劇団による国際コラボレーション『珈琲時光』も注目の新作だ。

「東京芸術祭2018」では、東京の芸術文化の多彩さ、舞台芸術がもつ可能性を感じる全36プログラムをお届けする。一部プログラムは無料観覧が可能。ぜひ、この機会に多くの舞台芸術に触れていただきたい。

東京芸術祭直轄プログラム『野外劇 三文オペラ』
10月18日(木)～28日(日)毎夜19:00開演
(10月23日は休演／小雨決行)

作:ペルトルト・ブレヒト 音楽:クルト・ヴァイル 訳:大岡淳
演出:ジョルジオ・パルベリオ・コルセッティ
出演:浅場万矢 綾田将一 泉陽二 葛たけ喜代 菊沢将憲
後藤英樹 小長谷勝彦 榎原有美 篠原和美 沼田星麻
廣川三憲 水口早香 宮下泰幸 森山冬子 柳内佑介
(50音順)

会場:池袋西口公園
料金:【全席自由・整理番号付】500円 ※観覧無料エリアあり

東京芸術祭2018
9月1日(土)～12月9日(日)
東京芸術劇場、あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)、池袋西口公園、南池袋公園 ほか

参加事業
芸術オータムセレクション……………9月1日(土)～11月25日(日)
としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム……9月1日(土)～12月9日(日)
フェスティバル/トーキョー18……………10月13日(土)～11月18日(日)
APAFーアジア舞台芸術人材育成部門……………10月15日(月)～11月12日(月)
東京芸術祭直轄プログラム……………10月18日(木)～11月4日(日)

●チケット取扱 東京芸術劇場ボックスオフィス ※一部、取扱のない公演あり。
0570-010-296(10:00～19:00 休館日を除く) ほか 詳細は、東京芸術祭2018公式 WEB サイトにて

【総合問合せ】東京芸術祭組織委員会事務局 03-6388-0119(平日10:00-18:00) <http://tokyo-festival.jp/>

I N F O R M A T I O N

鑑賞サポート| 目や耳の不自由な方を対象に、舞台・公演説明会、字幕機提供サービス(対象日限定・無料・要事前申込)等を実施しています。詳細は事業ごとに異なります。

10～12月
対象公演

ナイトタイム・パイプオルガンコンサートVol.24
ランチタイム・パイプオルガンコンサートVol.129
「書を捨てよ町へ出よう」

「ゲゲゲの先生へ」
NODA・MAP第22回公演「贗作 桜の森の満開の下」
エル・システム・フェスティバル2018 ガラコンサート

【お問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

主催:フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/NPO法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
※フェスティバル/トーキョー18は東京芸術祭 2018 の一環として開催されます。

2018.10.13 [SAT] ▶ 11.18 [SUN] フェスティバル/トーキョー18 人と都市から始まる舞台芸術祭

東京芸術劇場、あうるすぽっと、南池袋公園 ほか

Japan' s leading performing arts festival

マレビトの会
『福島を上演する』
作・演出: マレビトの会



10/25 (Thu) - 10/28 (Sun)
東京芸術劇場 シアターイースト

アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド
ショプノ・ドル 『30世紀』
脚色・演出: ジャヒド・リボン



11/3 (Sat) - 11/4 (Sun)
東京芸術劇場 シアターウエスト

アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド
境界を越えて
～アジアシリーズのこれまでとこれから～



11/8 (Thu) - 11/11 (Sun)
東京芸術劇場 シアターイースト

●詳細やその他のラインアップは festival-tokyo.jp へ



《チケット情報》

■東京芸術劇場ボックスオフィス TEL. 0570-010-296

休館日を除く 10:00 ～ 19:00/ 窓口販売あり
オンライン予約: (PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www.geigeki.jp/t/>

■F/T チケットセンター TEL. 03-5961-5209

開設期間 9/5 ～ 11/18 (12:00 ～ 19:00、9/5・9/9のみ 10:00より受付)
会期中無休、9/10～10/12の期間は土・日・祝定休 オンライン予約: festival-tokyo.jp (24時間受付)



近くてすぐ行ける!ひと休みにはEsolaのカフェがおすすめ!

4F 本と珈琲 梟書茶房
ホントコーヒー フクウショサガウ

※優待サービス
「BUZZを見た」で 珈琲・アイス珈琲 150円引き

昨年6月30日にオープンした新しいスタイルのカフェ。
「Coffee Meets Books」をコンセプトに、思いがけない本との出会いやスペシャルティ豆をブレンドした香り高い珈琲をゆっくりと愉しんでいただくための空間をご提供します。

116席 TEL.03-3971-1020 10:30～22:00 (L.O.21:30)

1F Roasted COFFEE LABORATORY
ローステッドコーヒーラボラトリー

※優待サービス
「BUZZを見た」で お会計合計額から10%OFF
※物販商品・グッズは除く

渋谷神南店のロースターで自家焙煎した鮮度の高い豆を使用したコーヒーショップ。その日の気分に合わせて豆をセレクトできる他、コーヒーと合わせるフードメニューも充実。

85席 TEL.03-5957-0893 8:30～22:00 テイクアウト可

B1F Détour à Bleuett
デトール・ブルーエ

※優待サービス
「BUZZを見た」で ドリンクメニューのみ10%OFF

Détour(デトール)は、フランス語で寄り道。毎日が楽しくなるような生活雑貨でおなじみのBleu Bleuett(ブルー・ブルーエ)の新しいスタイルとして「家」をコンセプトにした雑貨とカフェのお店です。寄り道したくなるような、お気に入りの場所に。

カウンターのみ6席 TEL.03-3980-5670
10:30～21:30(カフェは20:30まで) テイクアウト可

お花のプレゼントや観劇後のお食事にもEsolaが便利!

B1F FLEURISTE BON MARCHE
フルーリスト ボンマルシェ

BonMarcheはフランス語で「良い買い物」という意味。1人でも多くの方に1本でも多くの花を知っていただきたい、伝えたい、という思いを込めたブランドです。ご自宅用からギフトまで幅広く対応できる花とグリーンを取り揃えております。

TEL.03-5956-0087
10:30～21:30



6F 7F 8F Esola's restaurant
空のレストラン

ゆったりした空間でお食事を。



お問い合わせ 株式会社メトロプロパティーズ 03-5827-5838(平日 10:00～17:00)



Esola
東京メトロ有楽町線池袋駅直結

ショップ 10:30～21:30
レストラン 11:00～23:00
※一部店舗を除く
www.esola-ikebukuro.com

セールやイベント情報、
ちょっとおトクな話題を
公式SNSで配信中!

